

第51回 日本臨床細胞学会秋期大会 バーチャルスライドセミナー

症例 婦人科 (子宮体部)

(財)東京顕微鏡院 臨床検査部細胞病理診断科

窪田 真弓

* 臨床情報 *

年 齡: 50歳代

主 訴: 不正性器出血

採取部位(採取器具)

: 子宮頸管(サイトブラシ)

子宮内膜(吸引)

* 選択肢 *

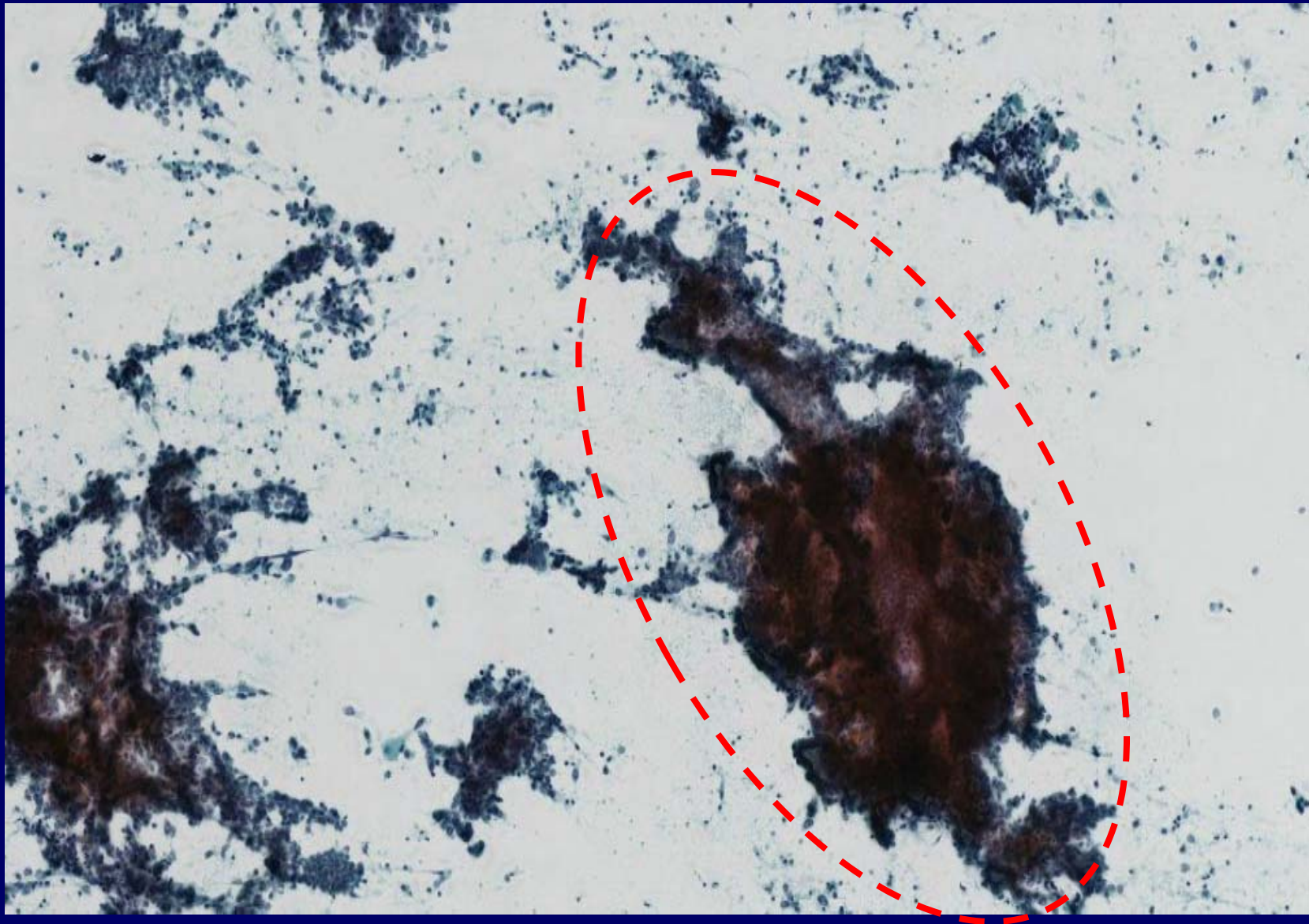
1. 類内膜腺癌(G2~3)
2. 類内膜腺癌(G2)
+ アリウス・ステラ反応
3. 類内膜腺癌(G2)
+ 子宮頸部非角化型扁平上皮癌
4. 類内膜腺癌(G2)
+ 子宮頸部再生上皮
5. 子宮体部癌肉腫

正解 : 5. 子宮体部癌肉腫

子宮内膜

※子宮内膜標本では3ヶ所の集塊を供覧

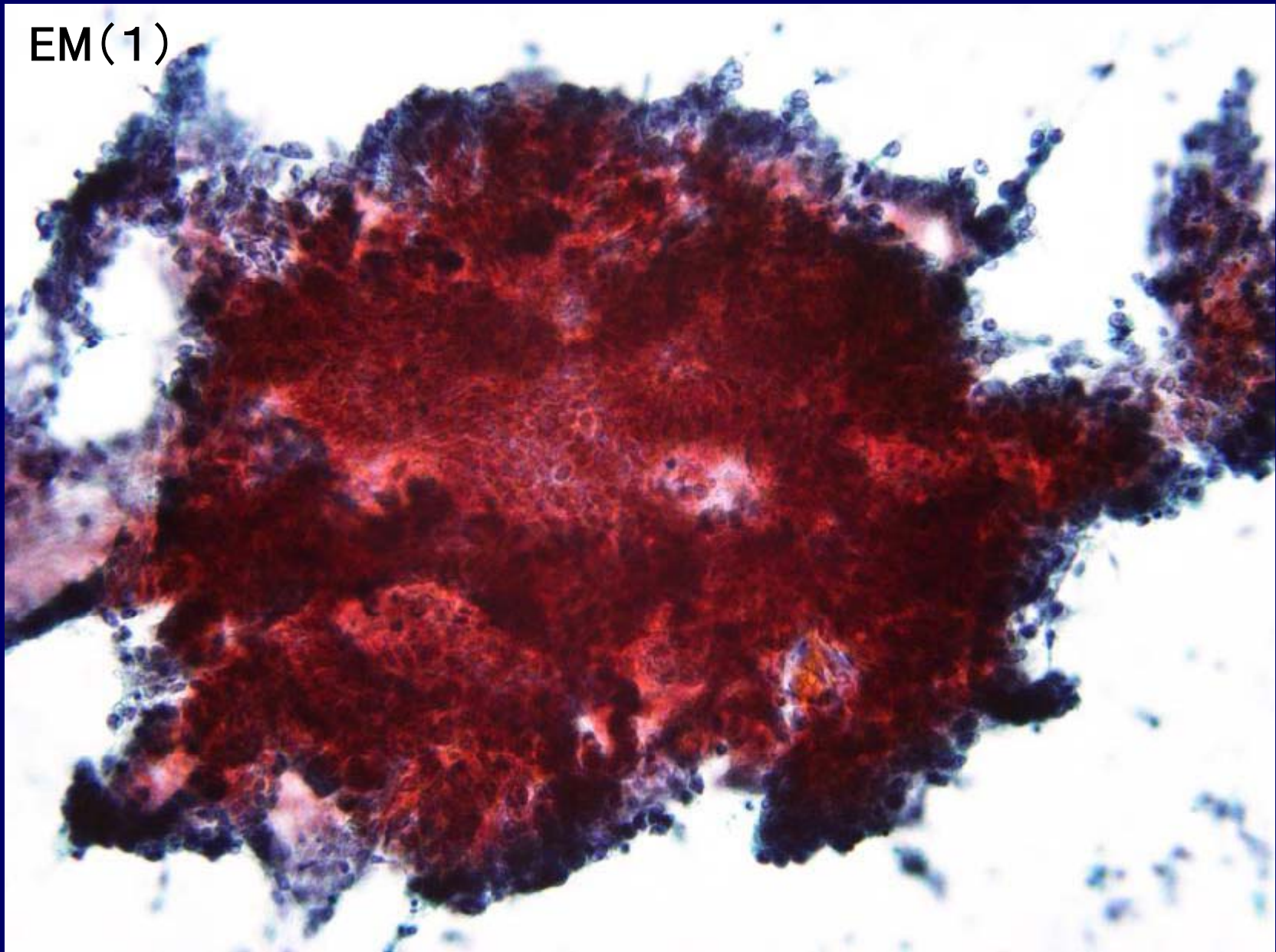
バーチャルスライドから引用



多数の炎症細胞を背景に、EM上皮が多層化した集塊、ルーズな結合性を呈する集塊～周囲に孤立散在性に出現

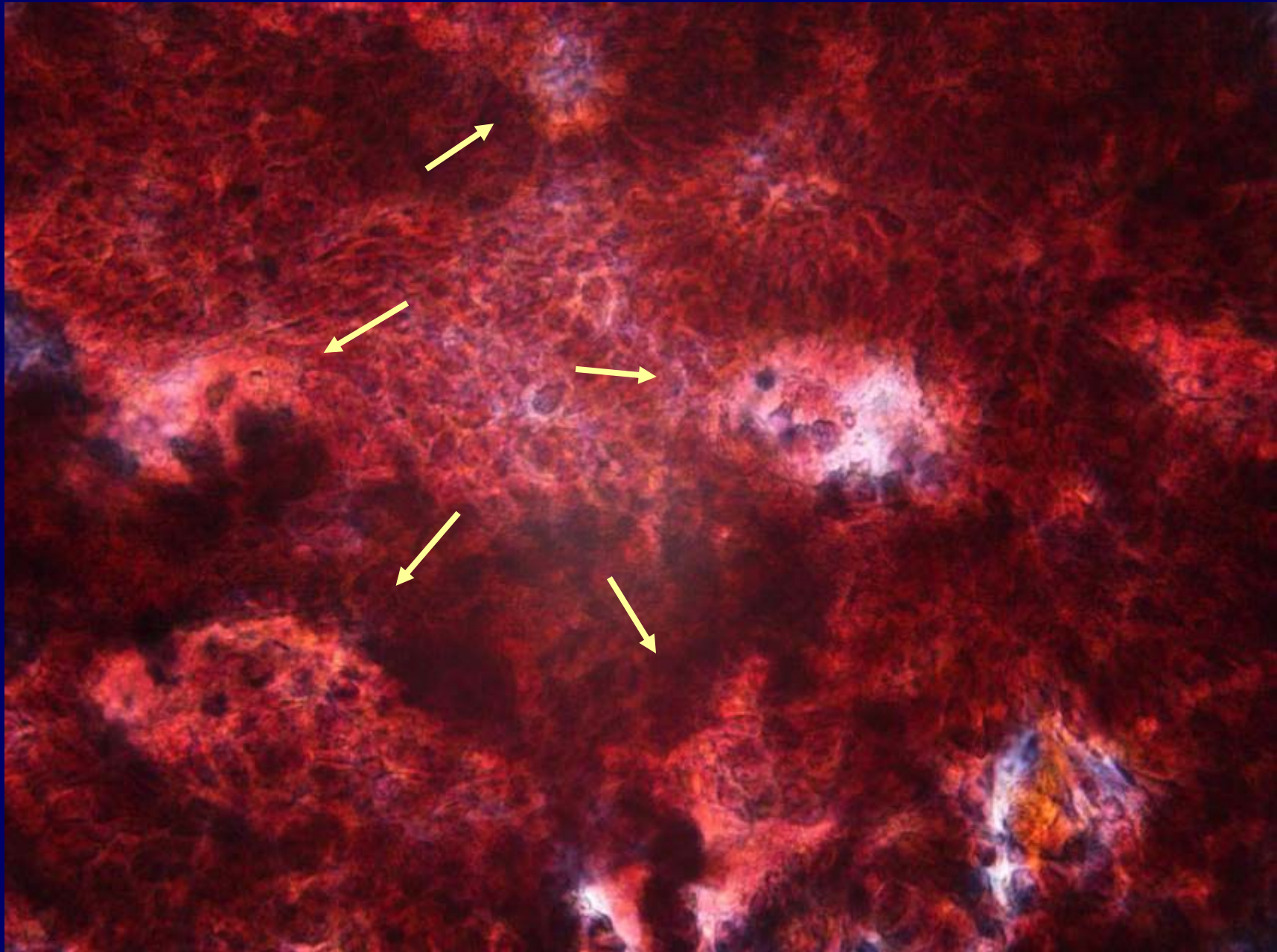
前スライドの <二二> 強拡大

EM(1)



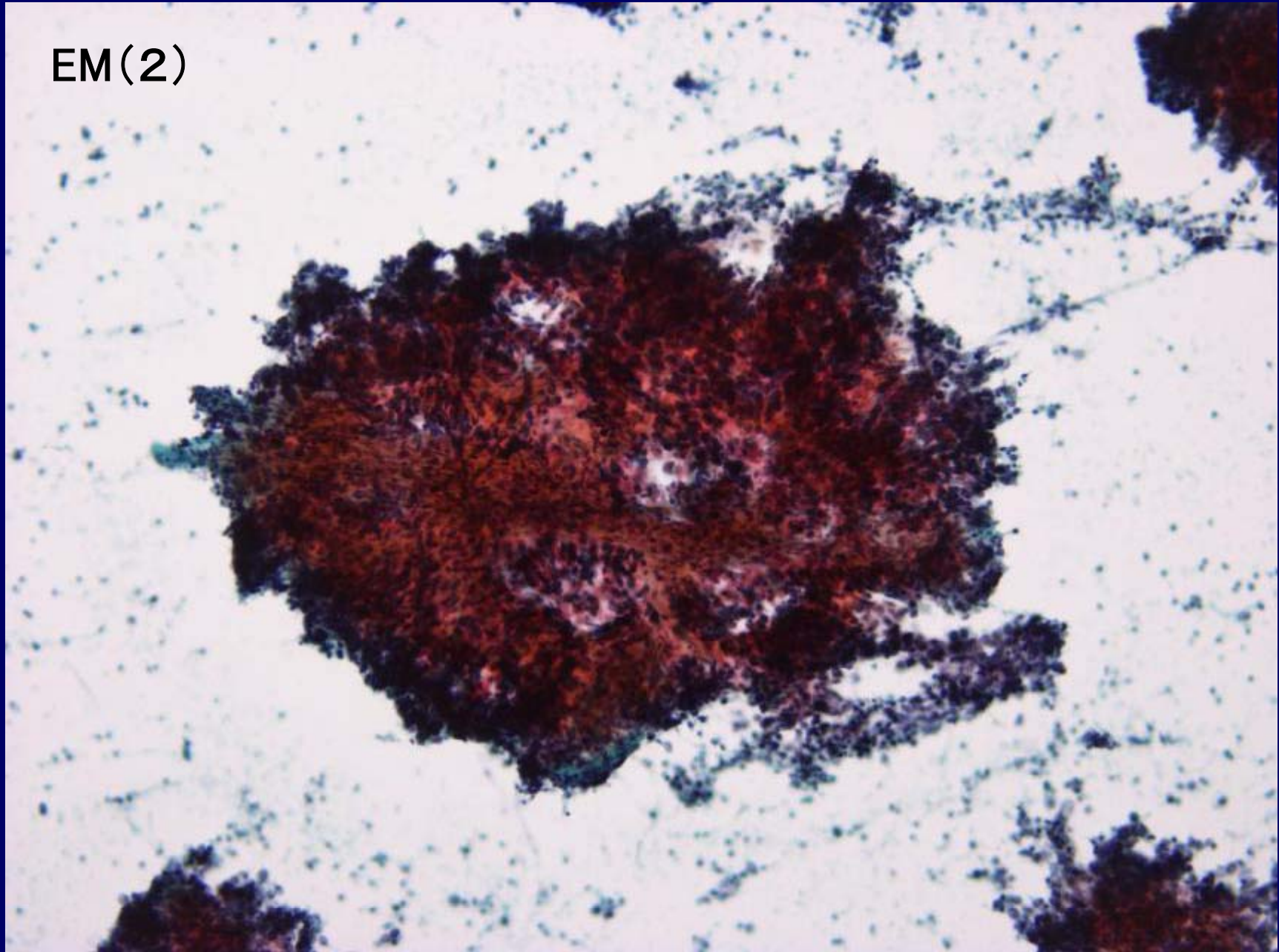
多数の腺腔を有する多層化したEM上皮集塊

(×20)

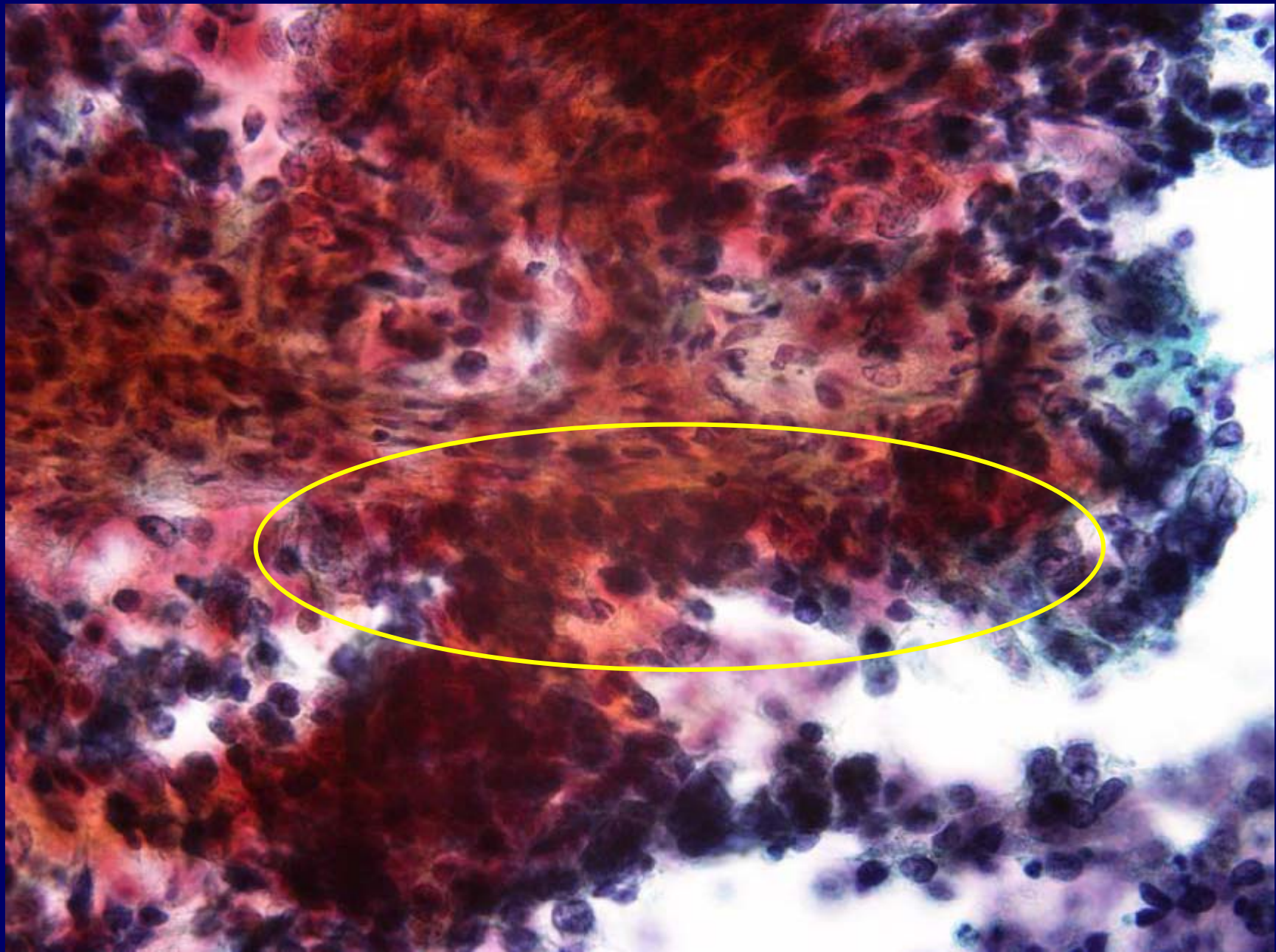


集塊内には ————— のように少なくとも5つは腺腔を認める (×40)

EM(2)

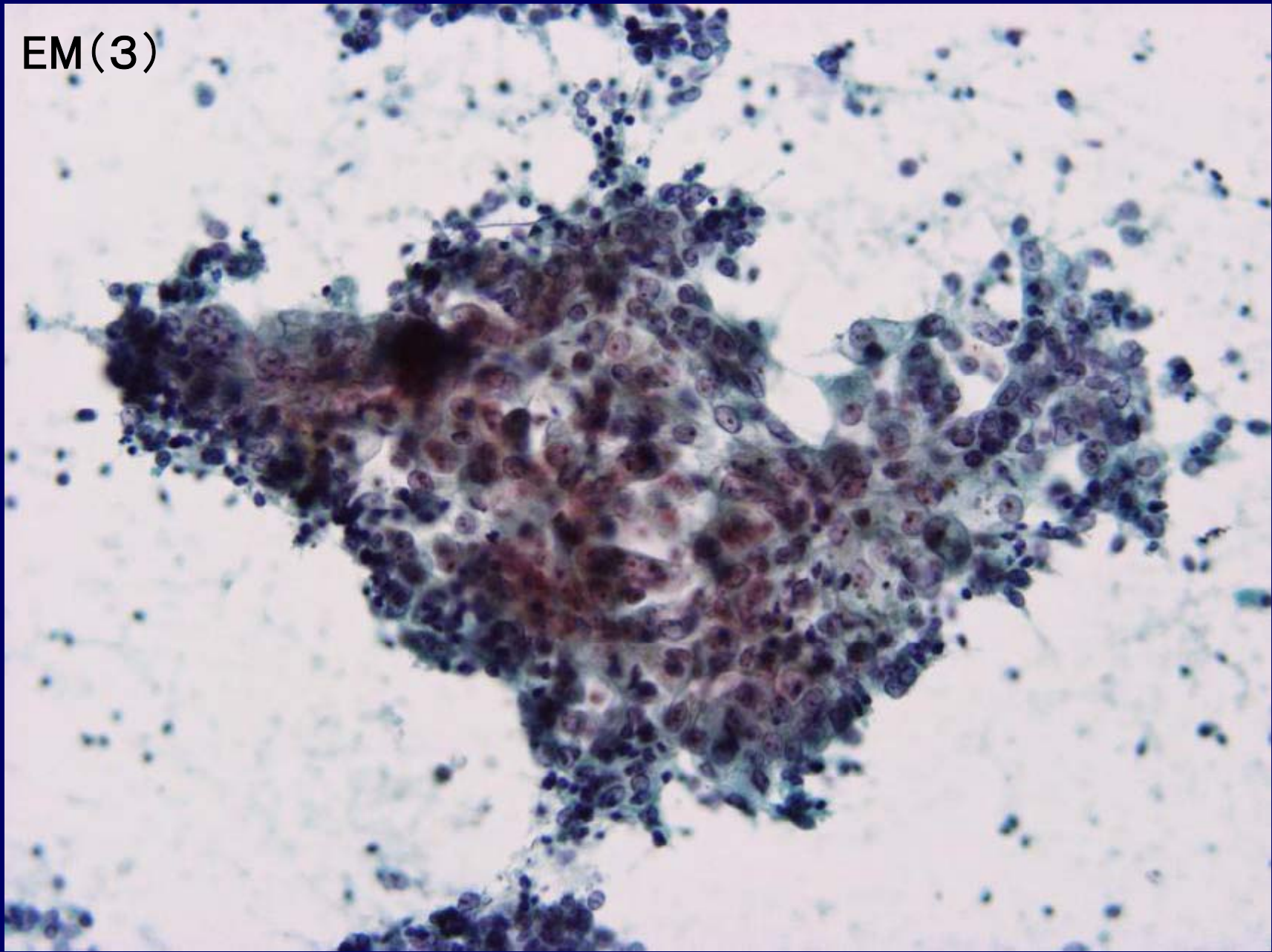


血管間質と考えるstromal Aの束を軸とするEM上皮集塊 (×10)

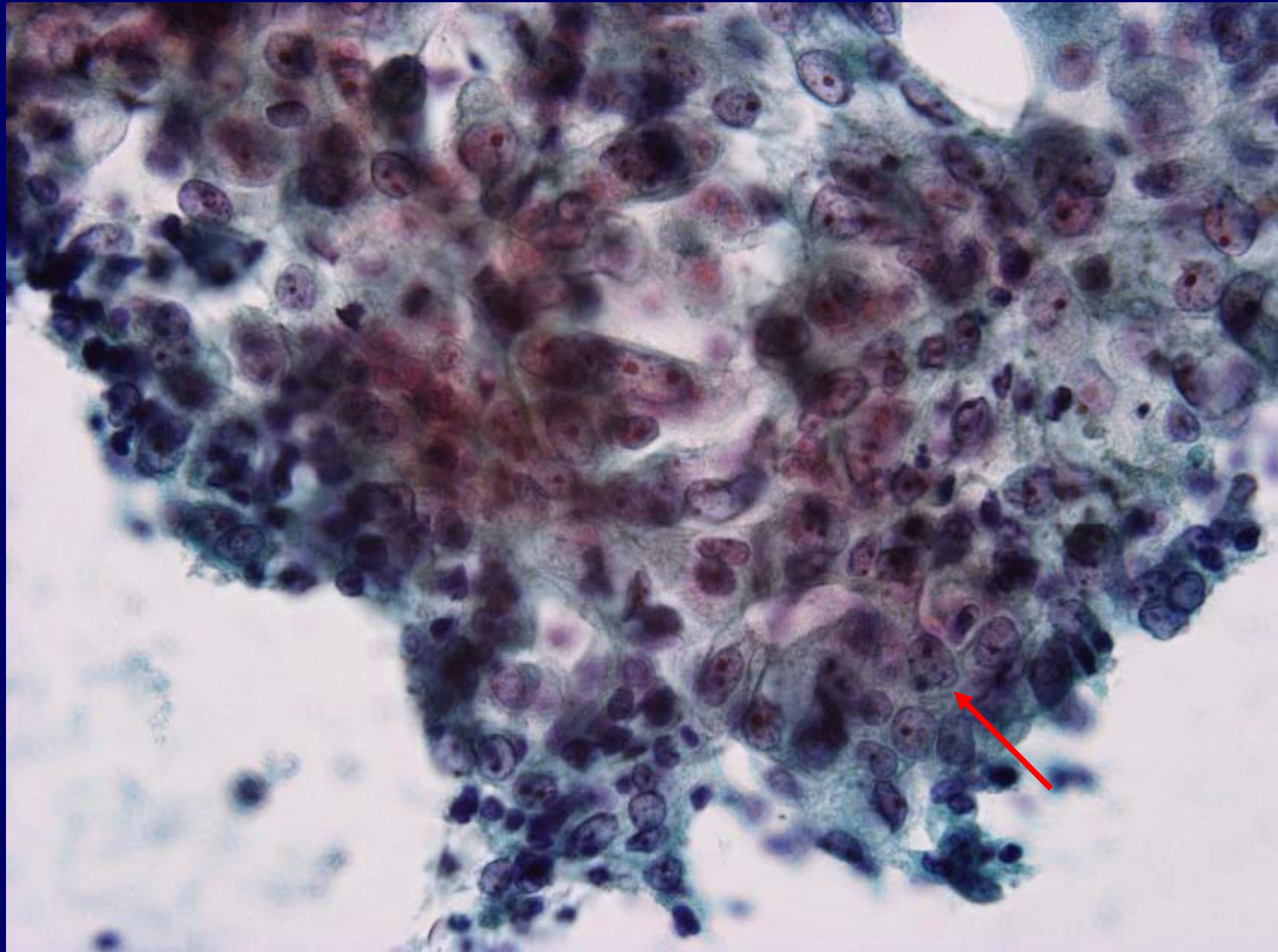


集塊内では血管間質と考えるstromal Aの東にEM上皮が直角に配列 (×40)

EM(3)



前スライドの集塊とは異なる異型が強く不規則配列を示す軽度重積性集塊 (×20)

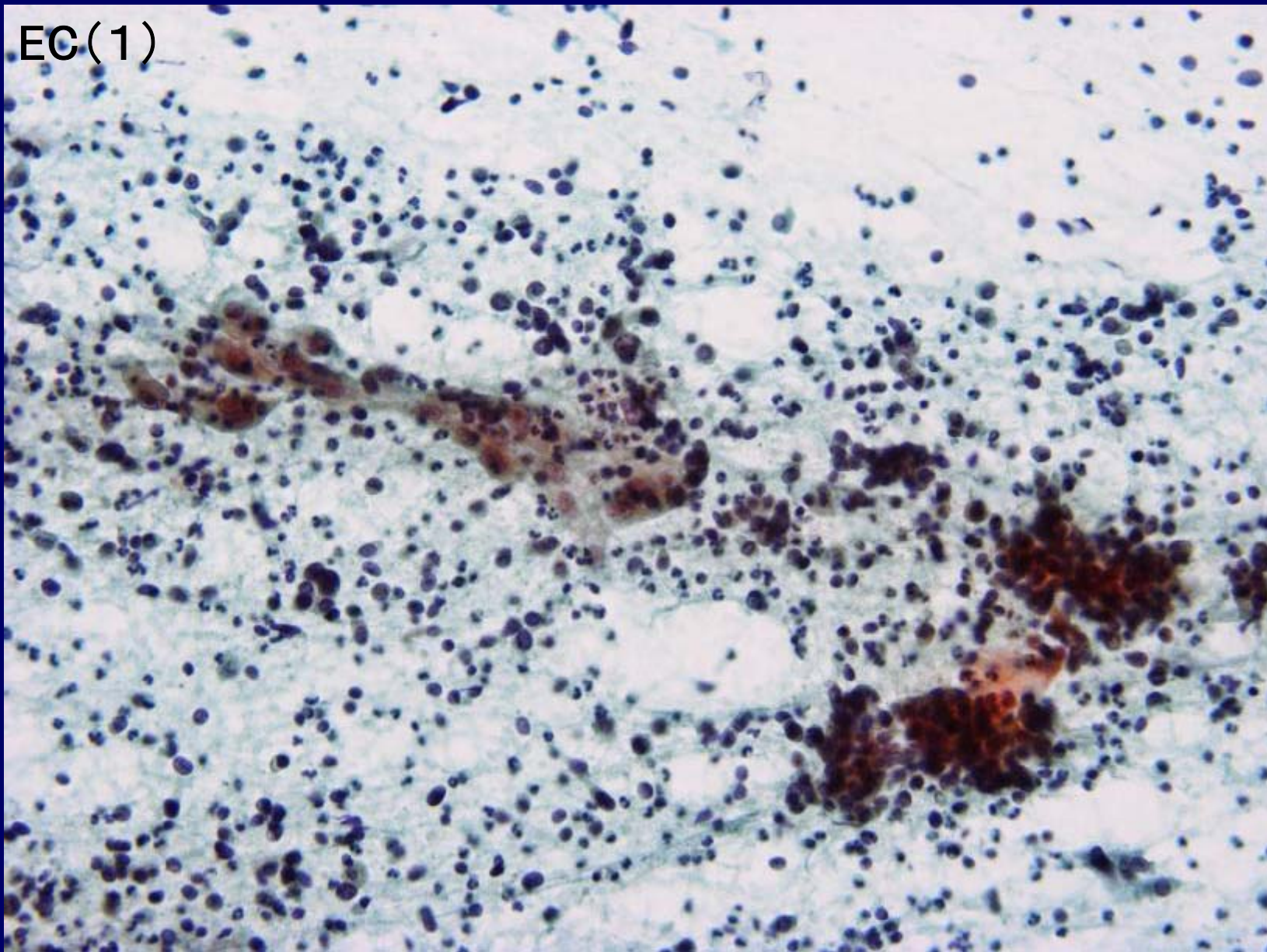


個々の細胞は、淡い胞体、核の大小不同・くびれ(→)などの核形不整 (×40)
を伴い、明瞭な核小体を単個～一部数個有している

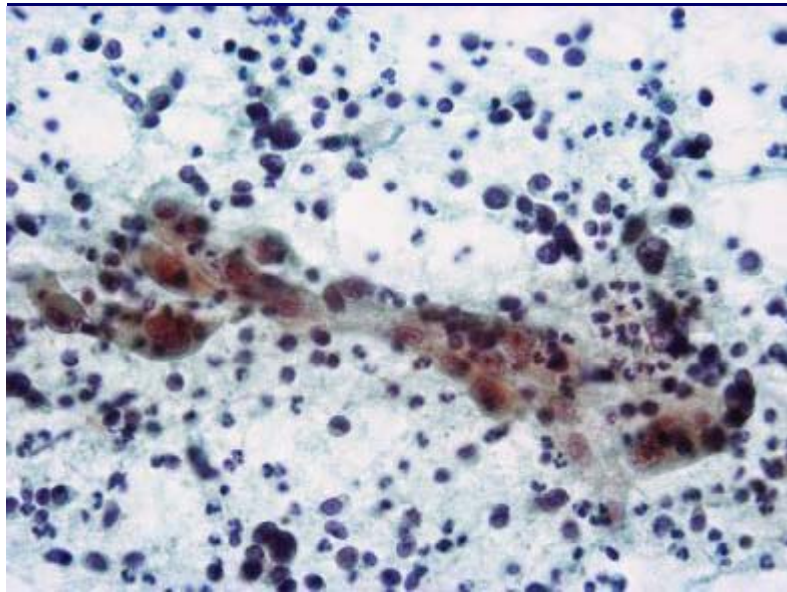
子宮頸管

※子宮頸管擦過標本では2ヶ所の細胞を供覧

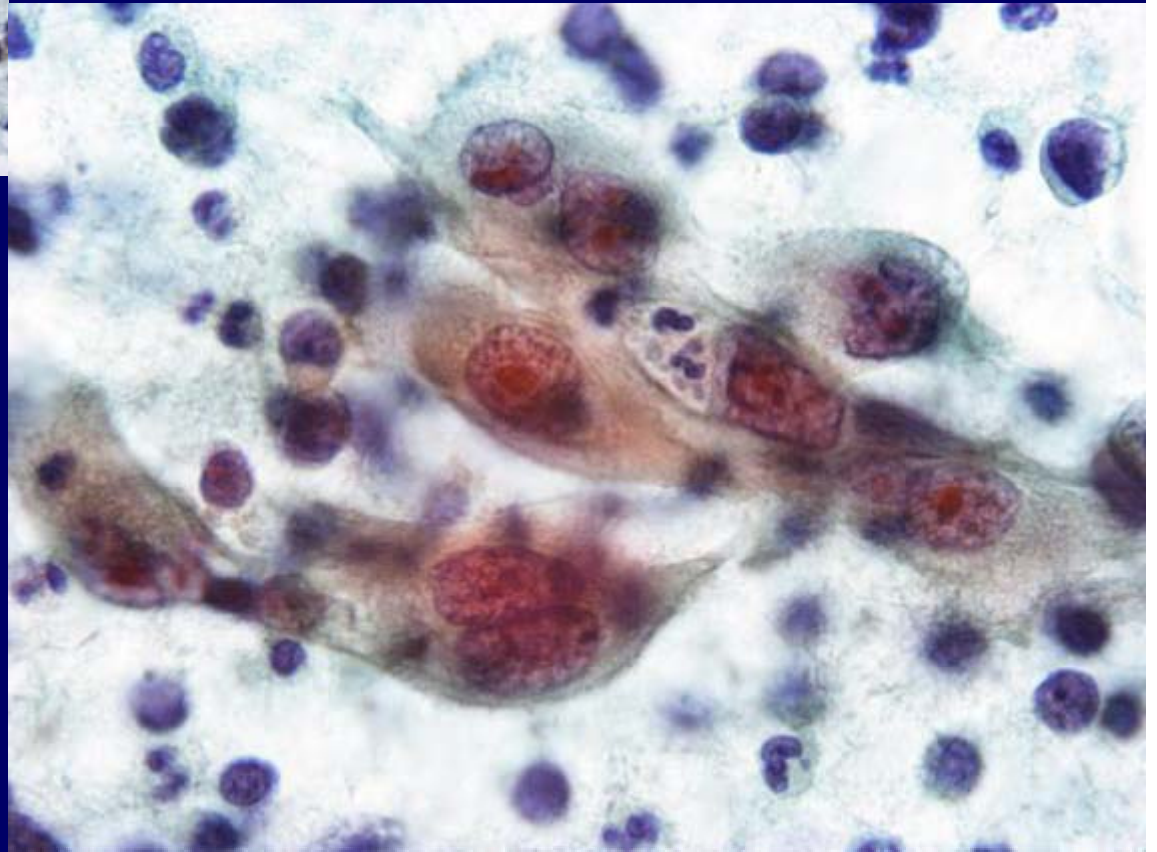
EC(1)



出血性背景の中、クロマチン増量を示す小型類円形細胞が不規則性を示す小型集塊～周囲に孤立性に多数出現⇒内膜由来の癌細胞と考える
その中、埋もれるように再生上皮様集塊を認める (×20)



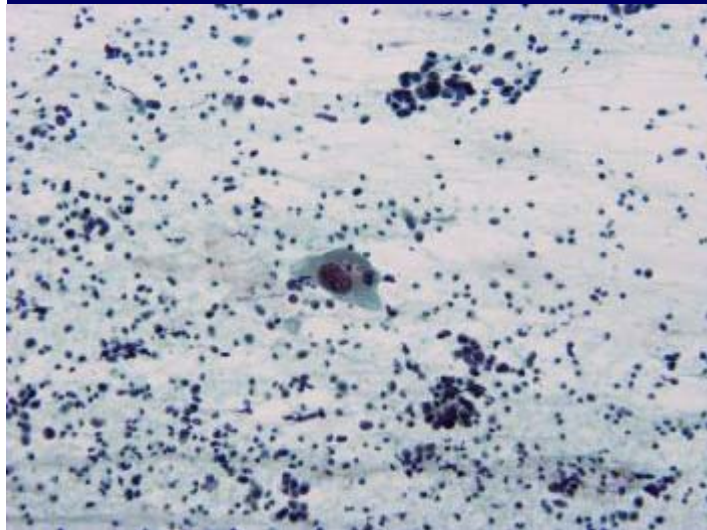
(×40)



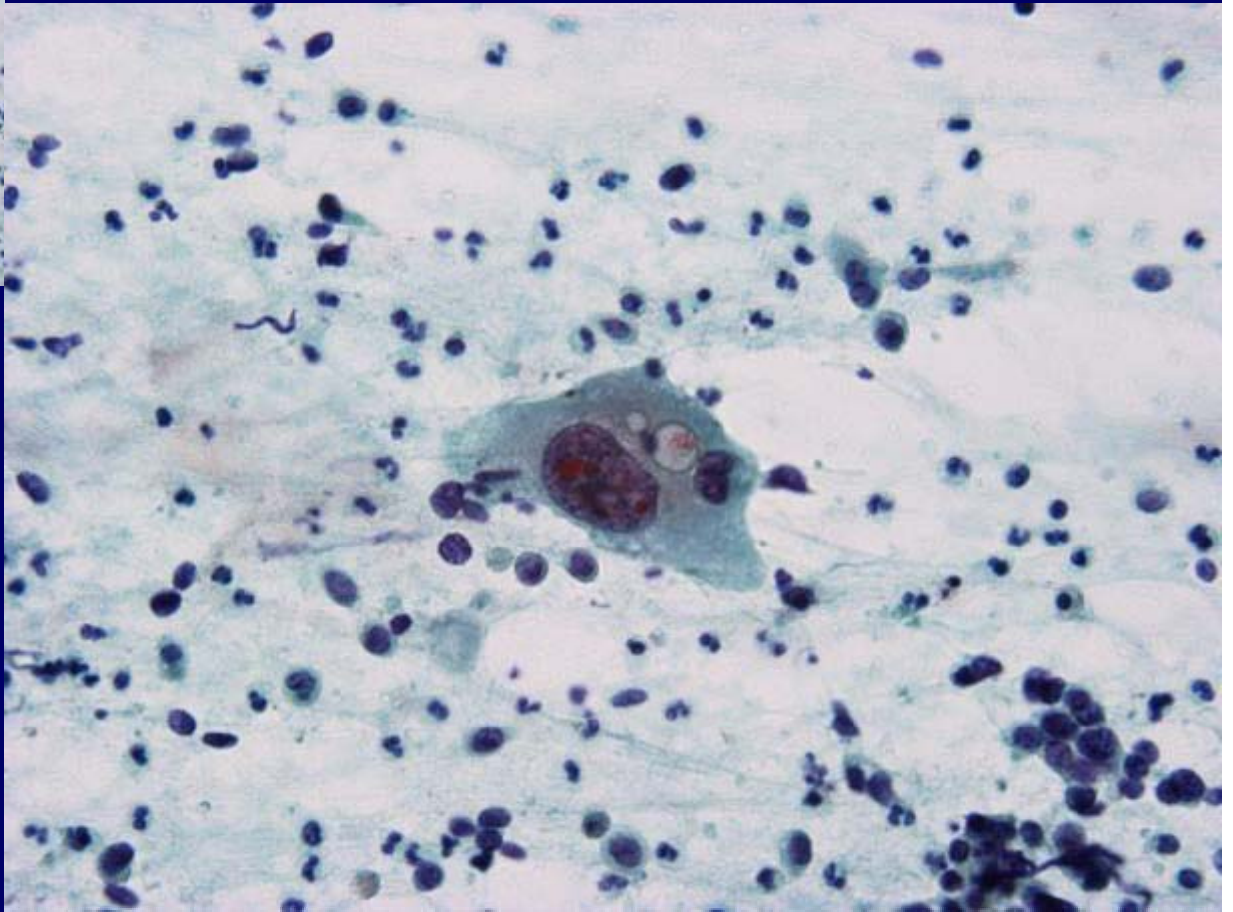
個々の細胞は、クロマチン粗大顆粒状、大型不整形な著明核小体を単個～数個有している

(×100)

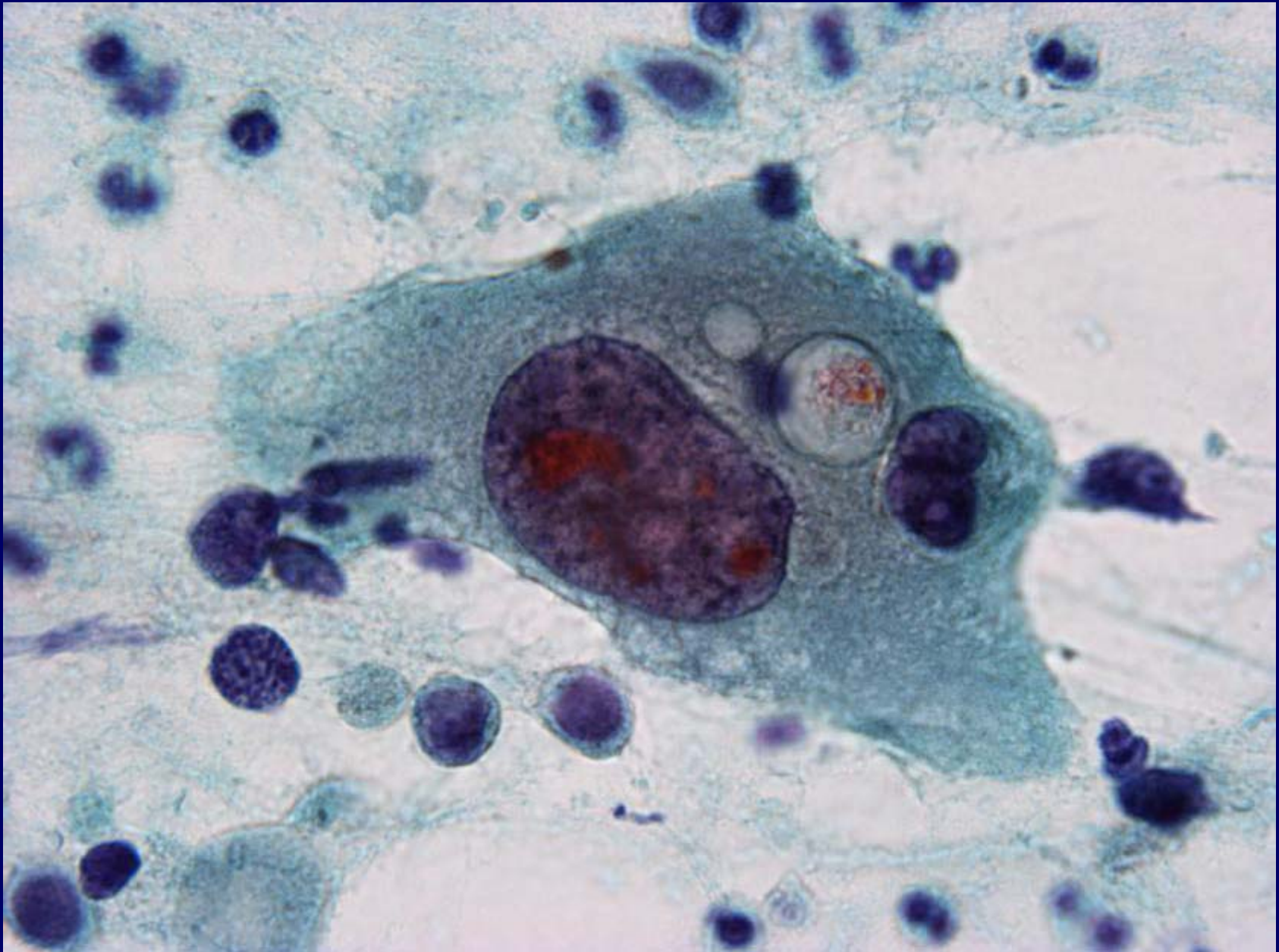
EC(2)



(×20)



前スライドの細胞より胞体が厚くライト緑好性、多稜(×40)
形を呈する細胞が孤立性に出現



クロマチンは増量しており、大型で不整形な著明核小体を数個有している（×100）

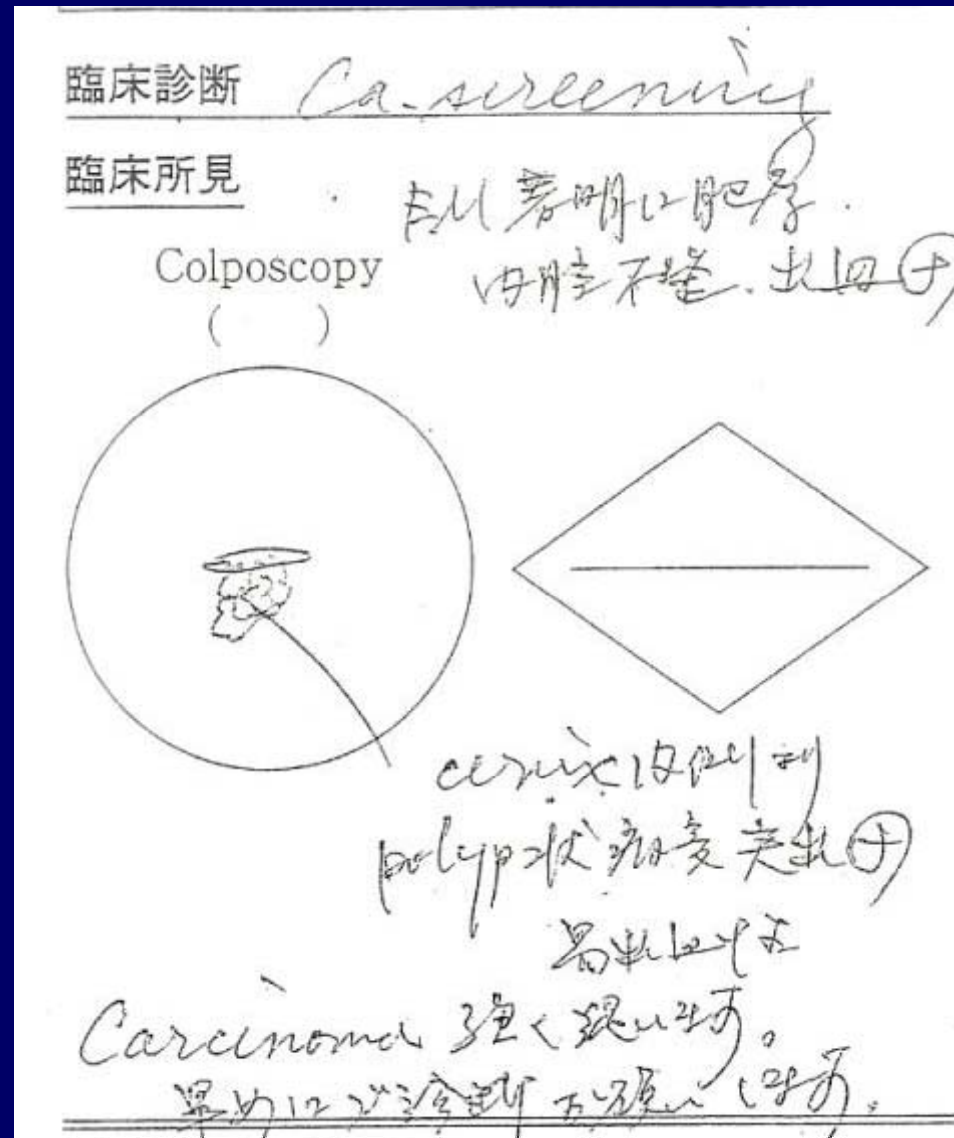
* 細胞診結果 *

S・EC・EM
: Class V

類内膜腺癌 (G2)

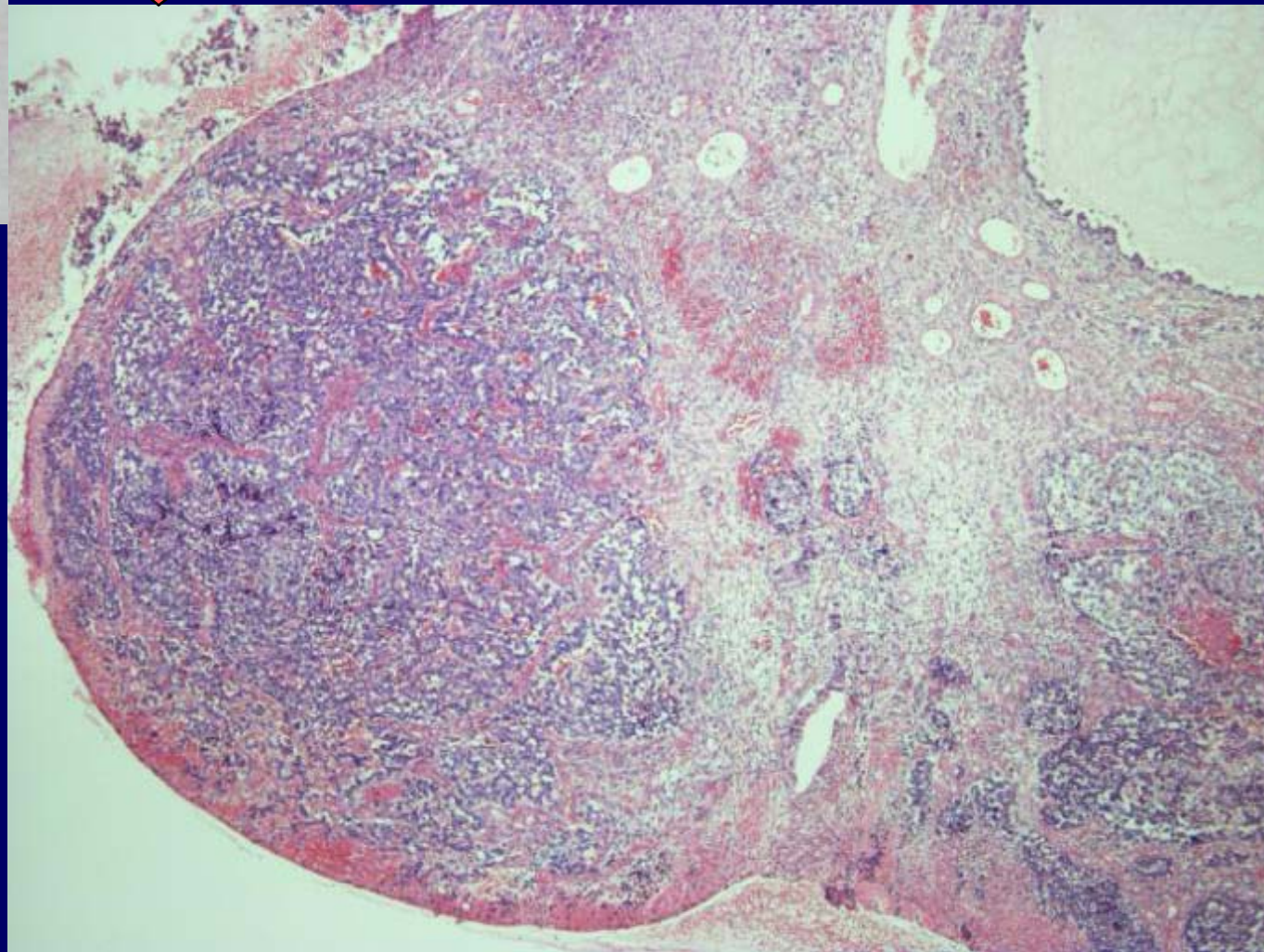
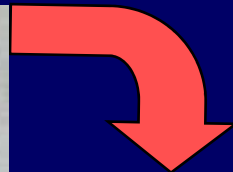
※ 子宮頸管擦過標本で認められた細胞は、再生上皮様と考え、また内膜由来と考える癌細胞を多数認めるも子宮腔部・頸管由来の細胞に特記すべき所見は認められなかった。よって、子宮内膜標本上より類内膜腺癌と考えた。グレードは、ルーズな結合性また孤立性にも多数出現している点、異型の強い細胞も認められる点よりG2程度と判定した。

コルポ所見

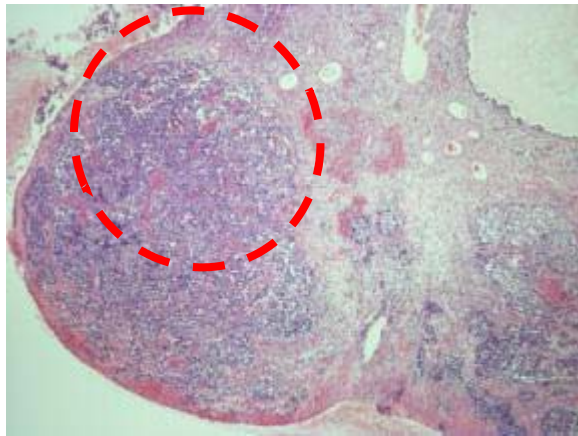


子宮内腔側より不整なポリープ状病変が認められ、
子宮内膜癌が疑われた⇒組織診施行

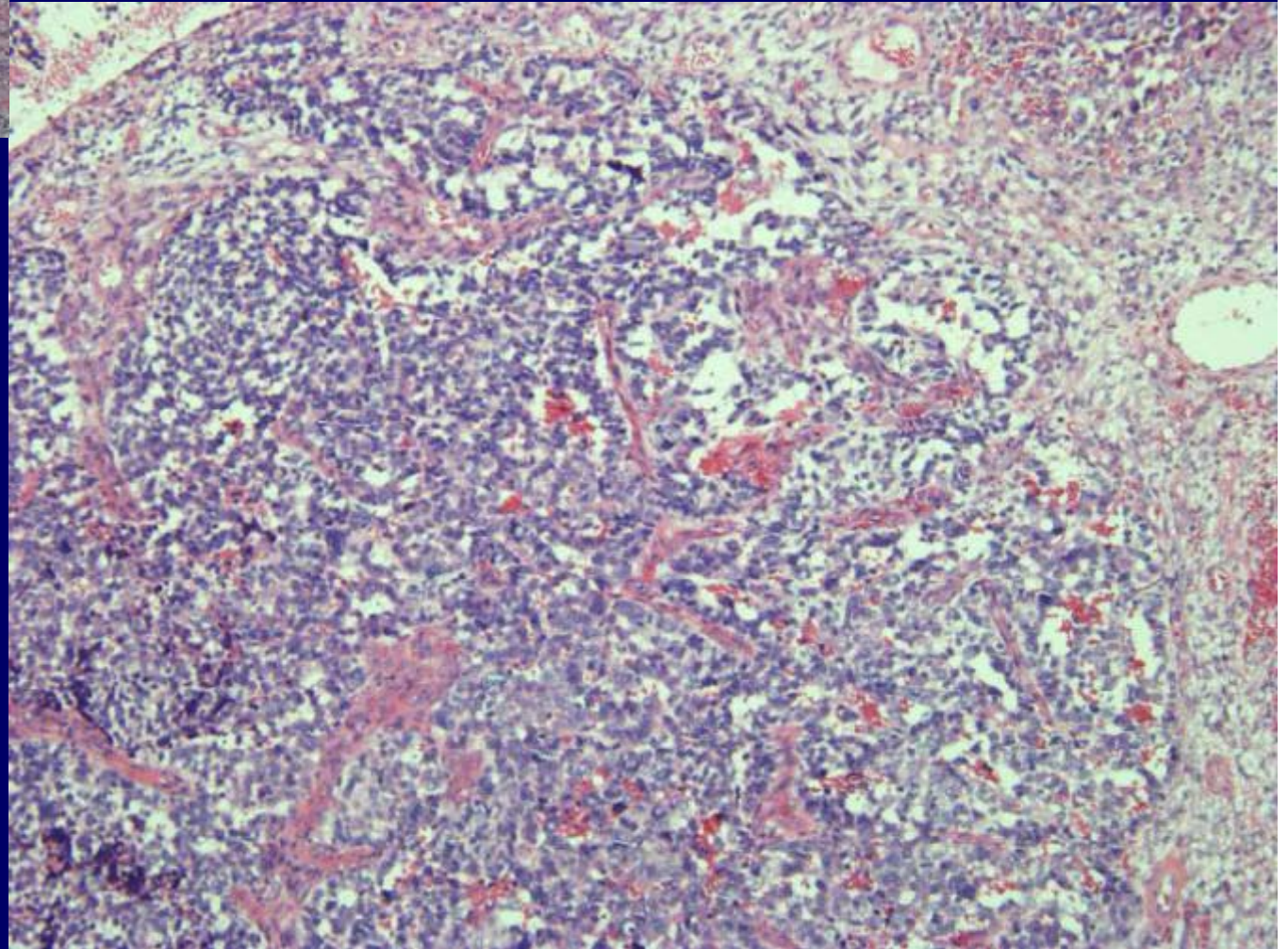
採取されたポリープ状の組織片を
2分割したルーペ像



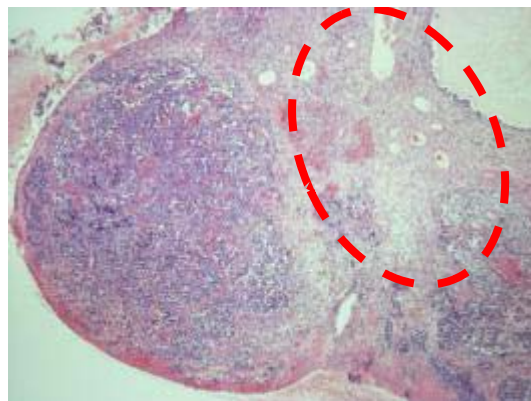
ほとんど癌組織で占められており、壊死も広範に伴っていた (×4)



(×4)

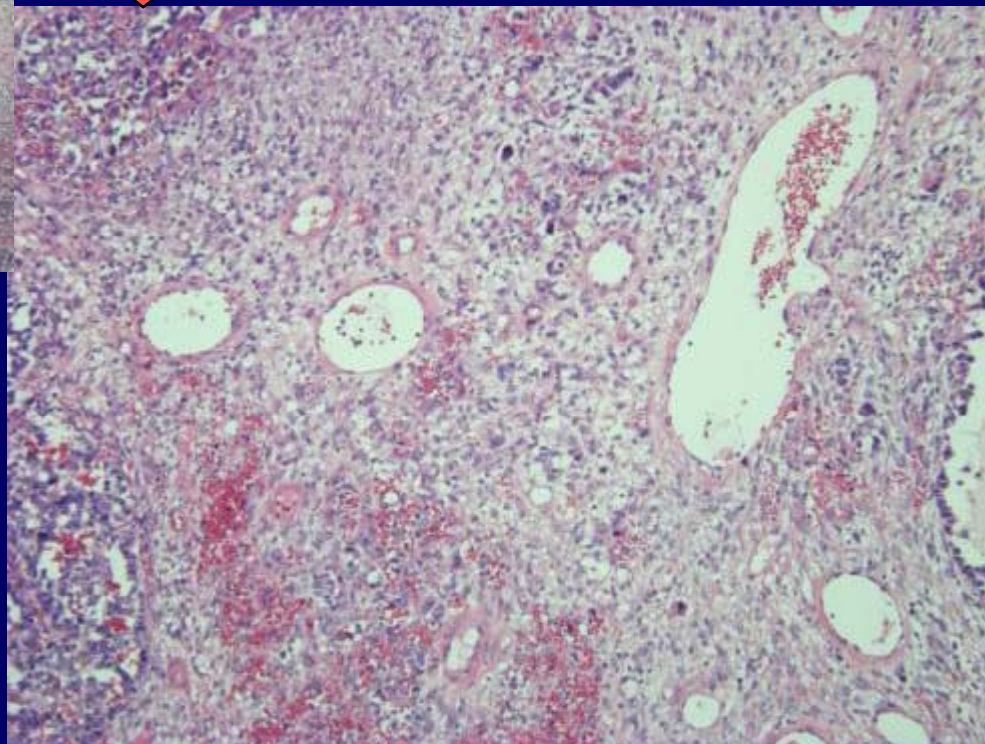


濃染・腫大する核を持った低円柱状～立方状の異型細胞が充実性に配列、(×10)
浸潤・増殖した像からなっている⇒類内膜腺癌、G3と診断された



(×4)

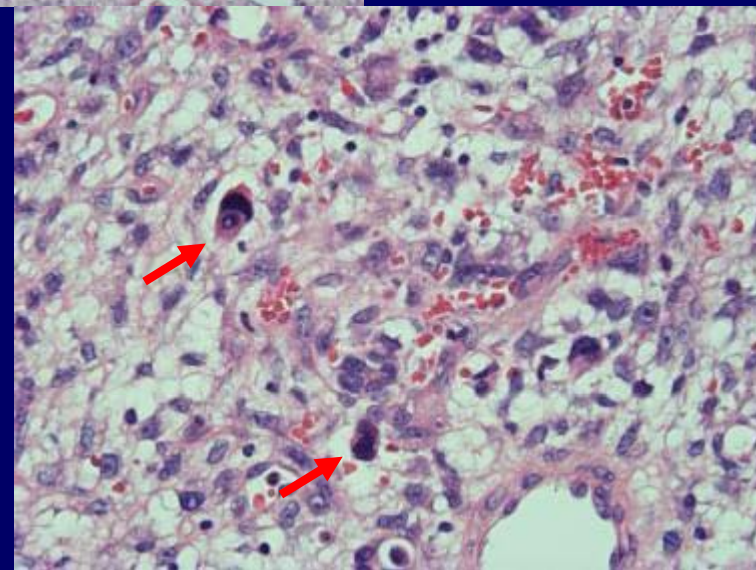
間質部位



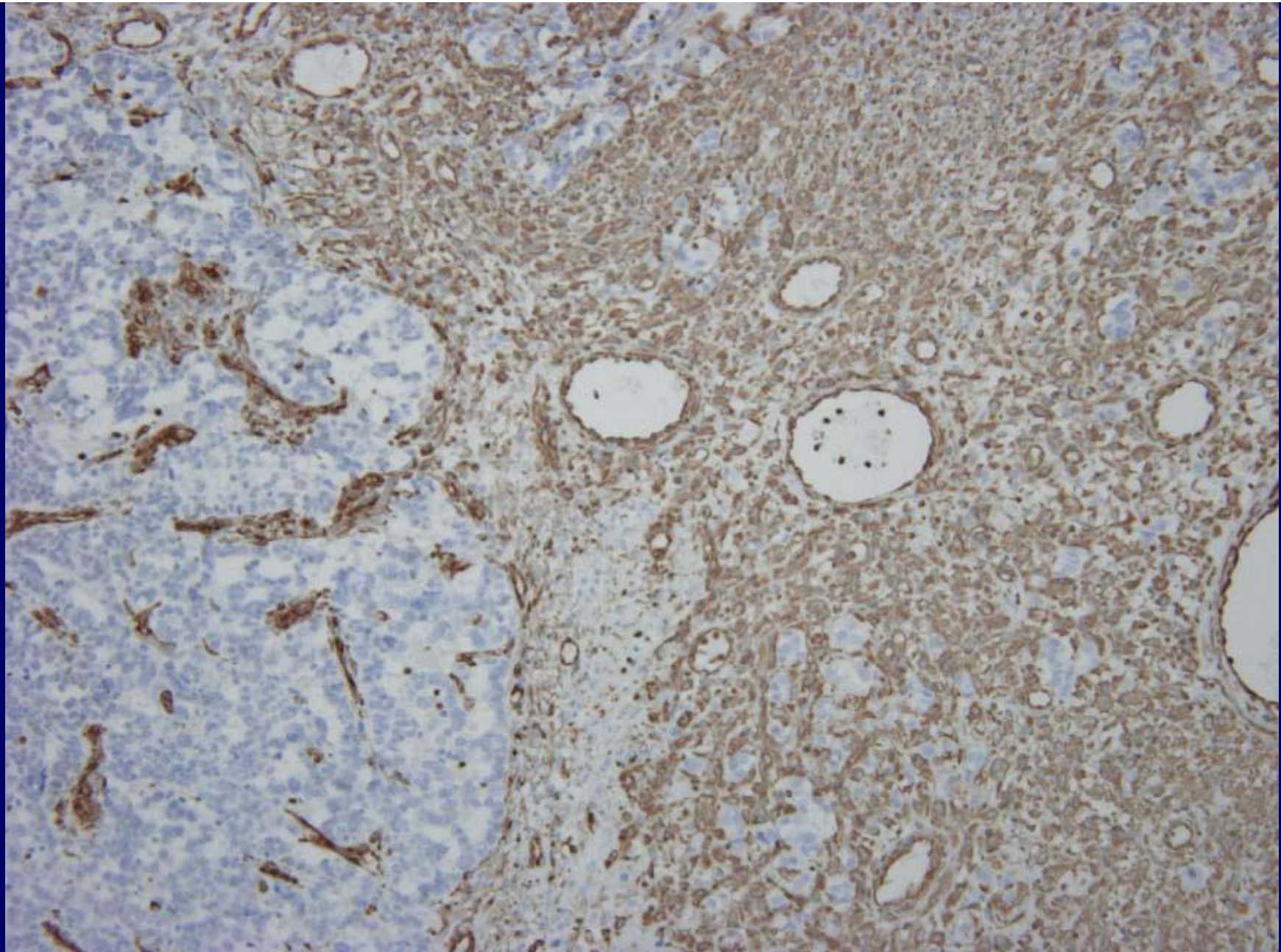
(×10)

間質を構成する細胞にも異型が目立ち、→
のように好酸性の胞体を有する異型細胞も認めた

⇒横紋筋成分を含む異所性癌肉腫も否定できないと診断された(今回、HE標本上に横紋は認められなかった)

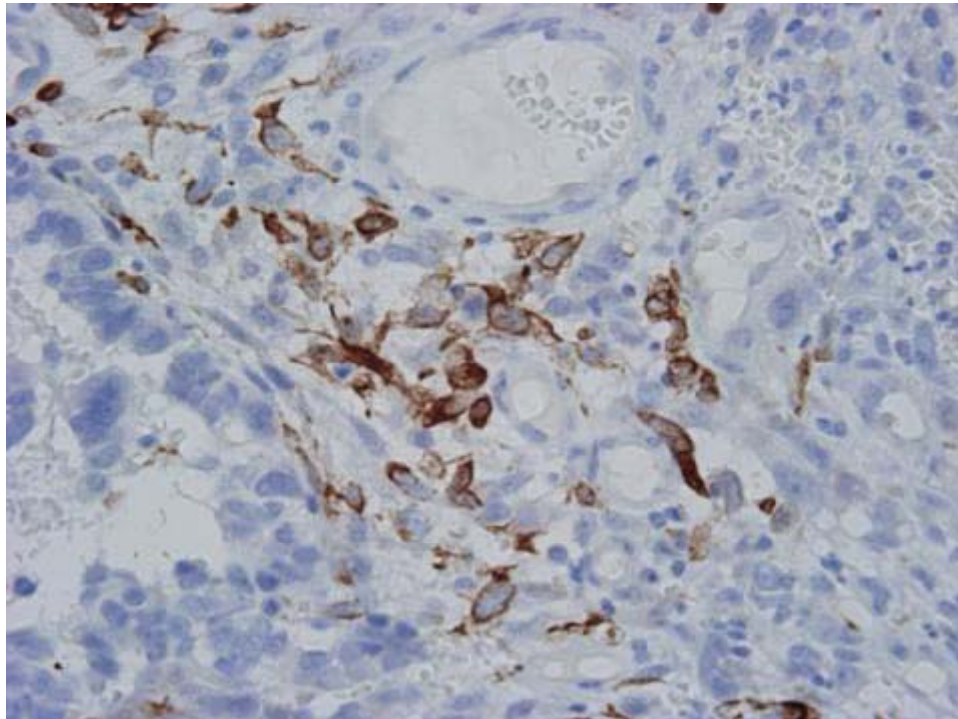


(×40)

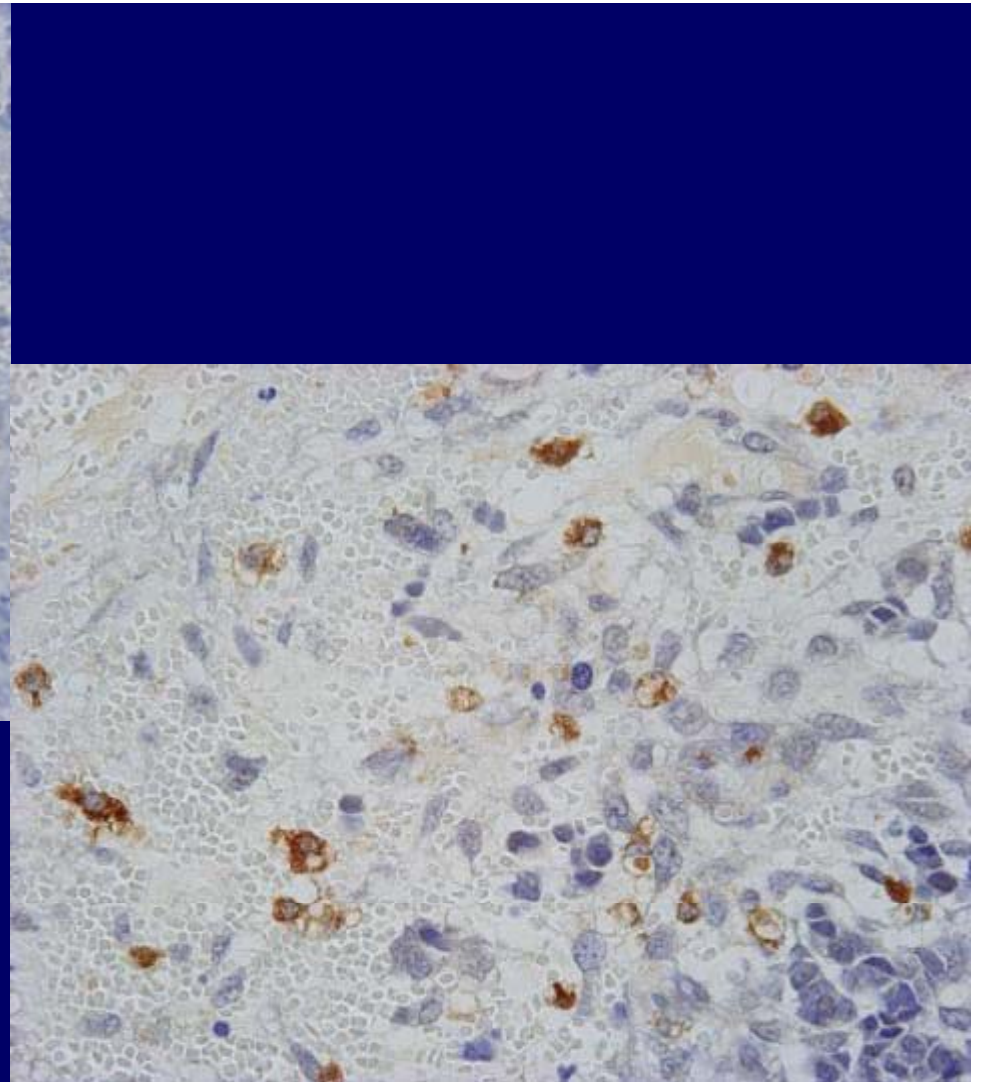


Vimentin(+)

(×10)



Desmin(+) (×40)



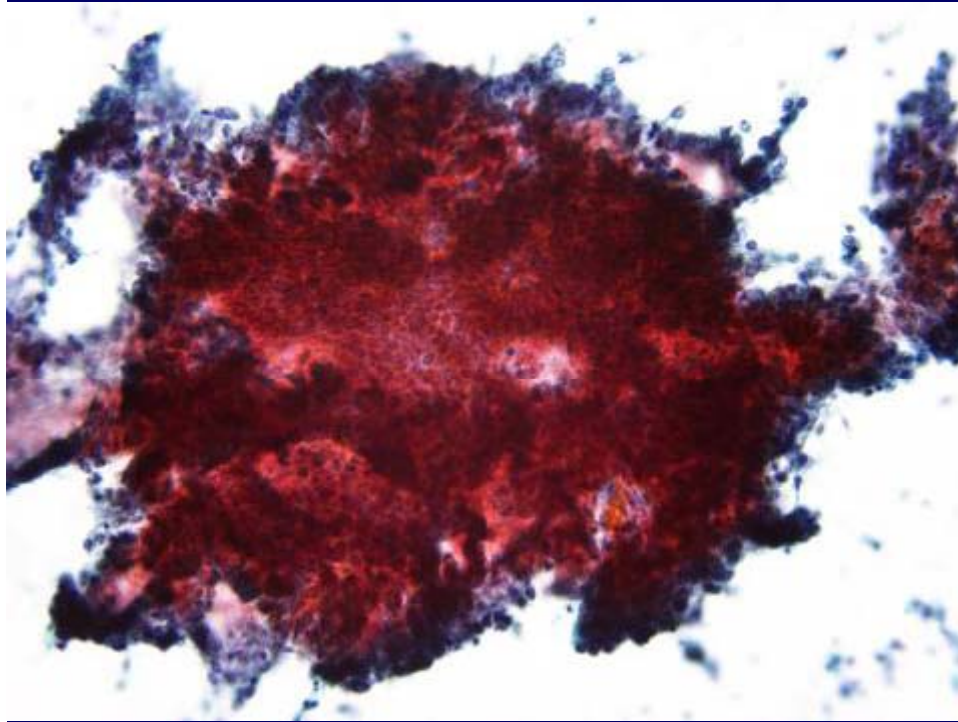
Myoglobin(+) (×40)

＜免疫組織化学的検索の結果＞

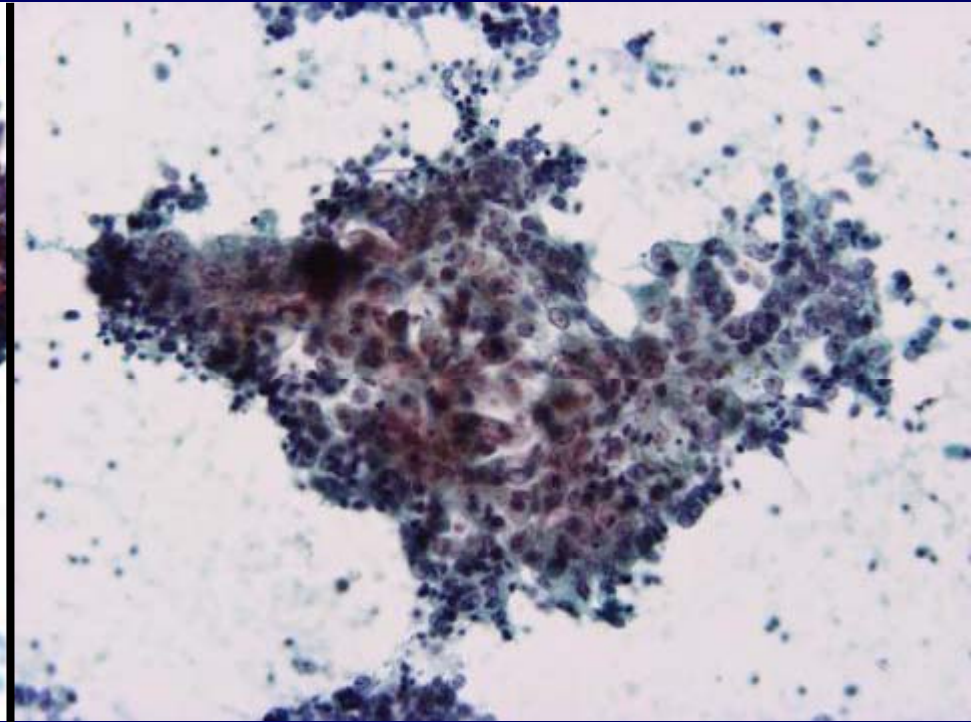
異所性、横紋筋成分を有する癌肉腫と診断された

<再度、標本の見直しの結果①>

子宮内膜標本上では、右下の写真のように胞体が淡く明瞭な核小体を有する異型細胞集塊は認めるが、左下の写真のような類内膜腺癌を考える細胞を認めるのみであった。



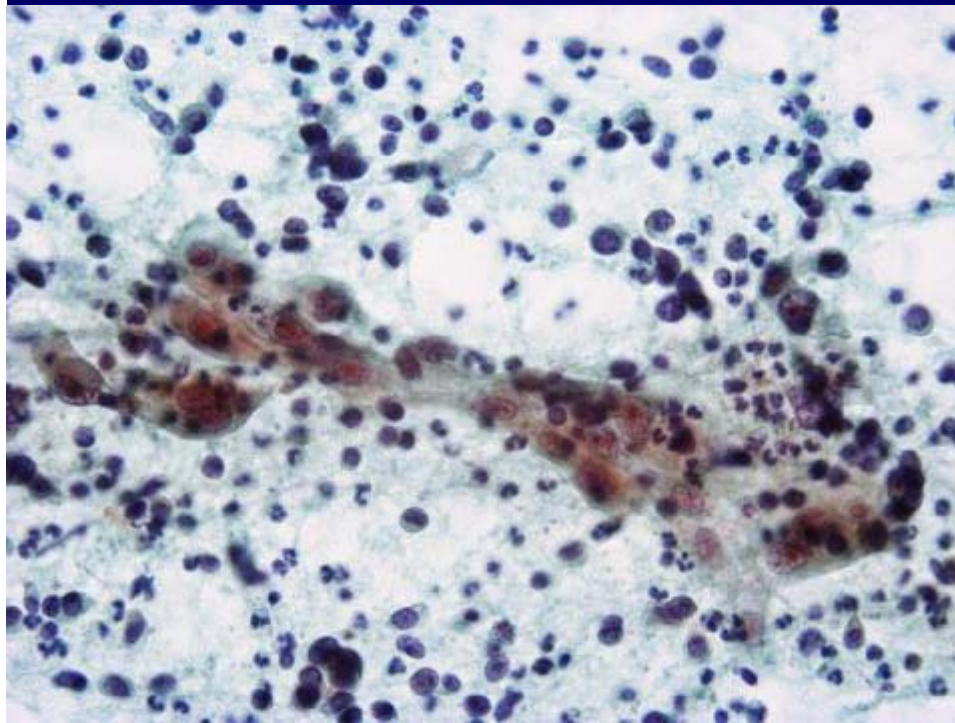
EM ×20



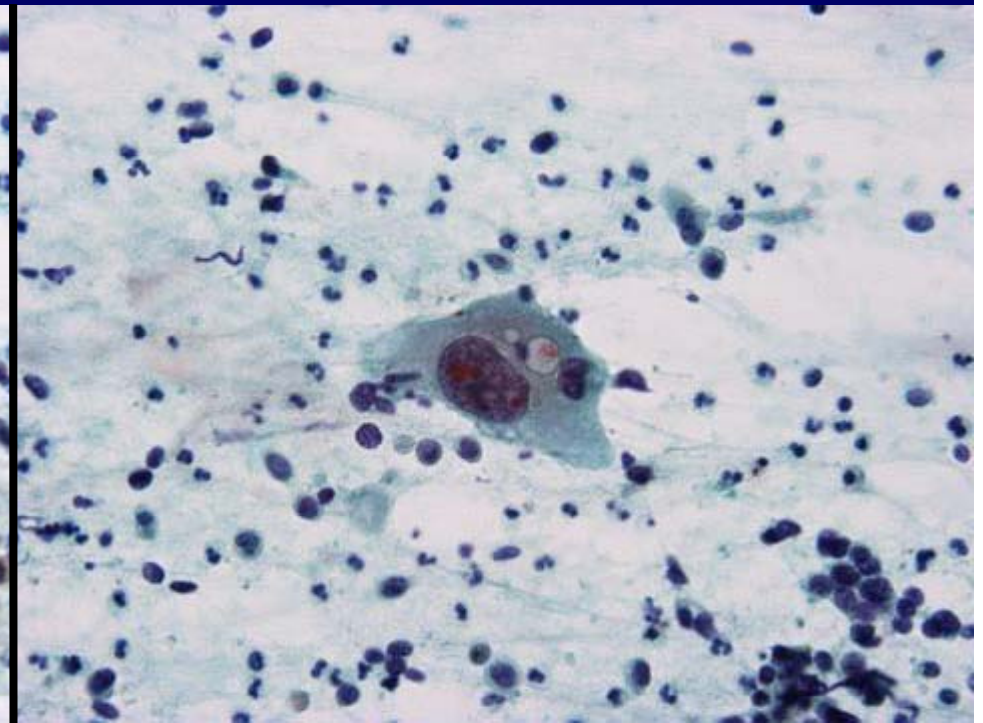
EM ×20

<再度、標本の見直しの結果②>

子宮頸管擦過標本で認めた下の2つの写真のような細胞は、上皮性ではなく非上皮性、肉腫由来の細胞ではないかと考えた。これらの細胞は、子宮内膜標本上には認められなかったが、子宮腔部擦過標本上には数ヶ所認められた。



EC ×40

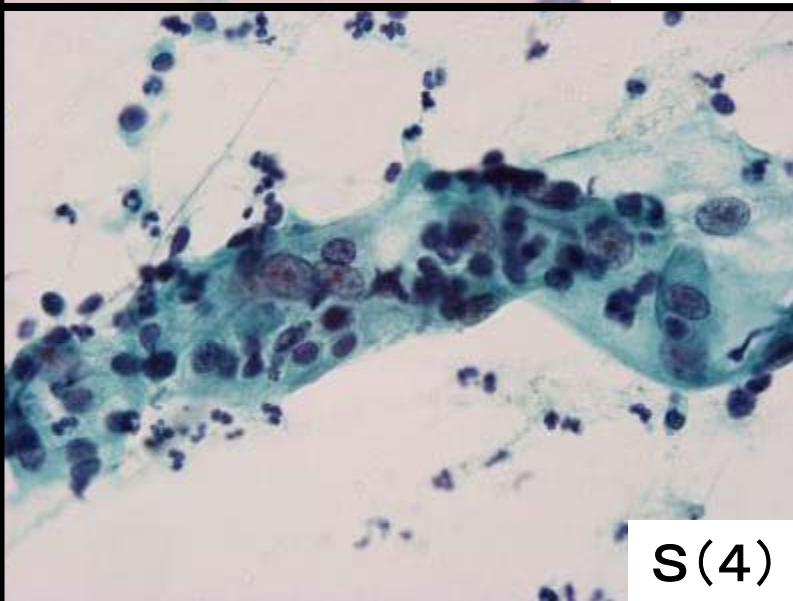
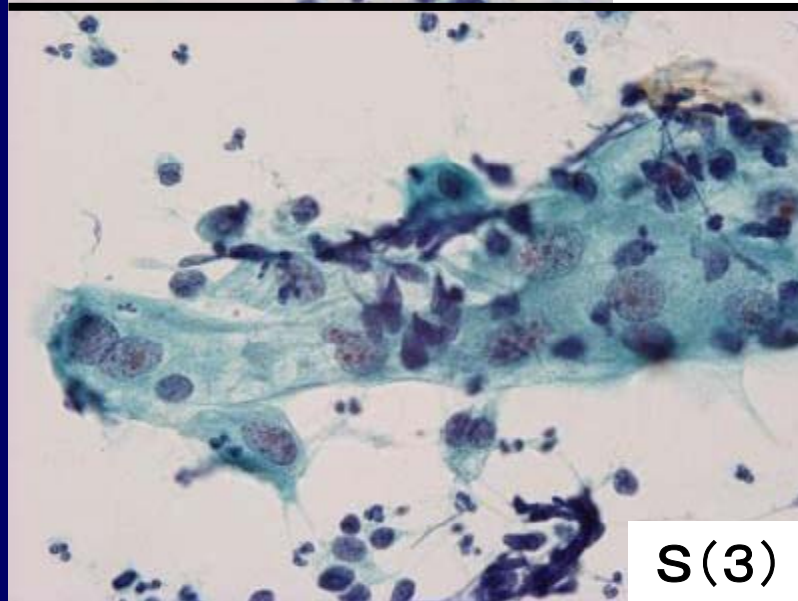
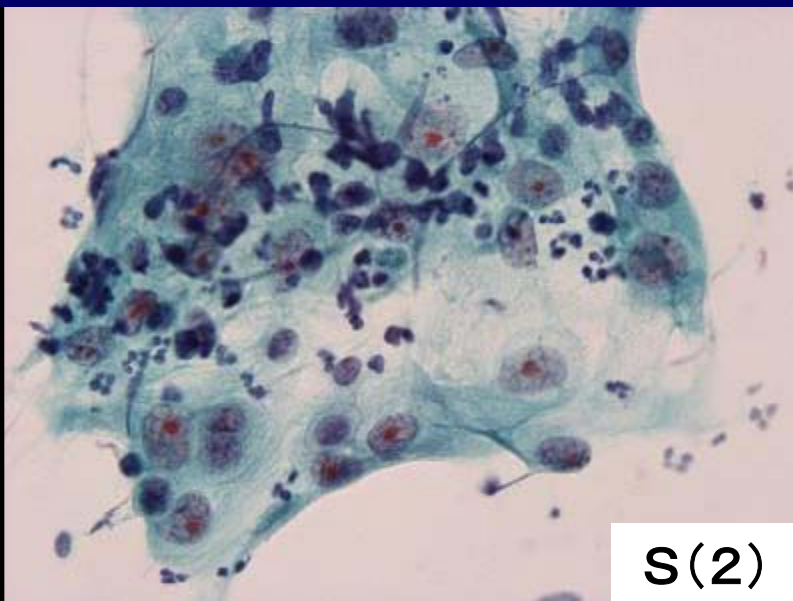
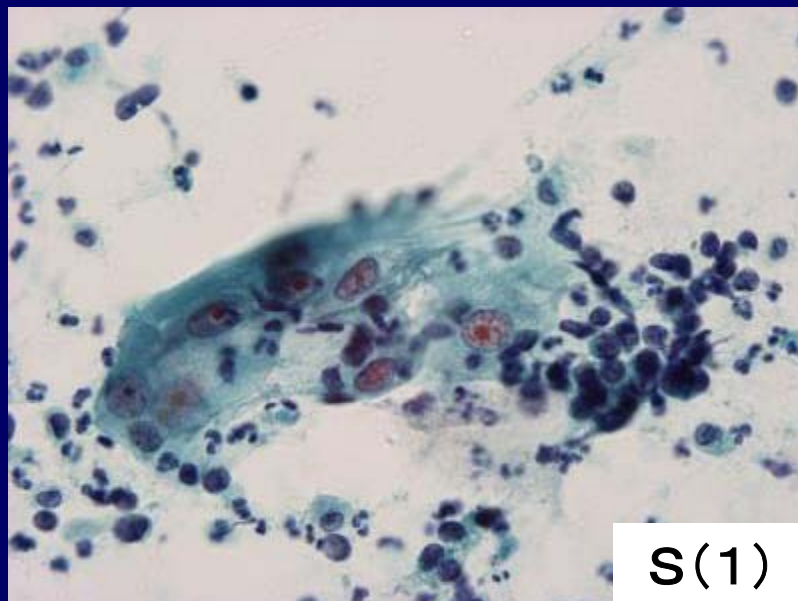


EC ×40

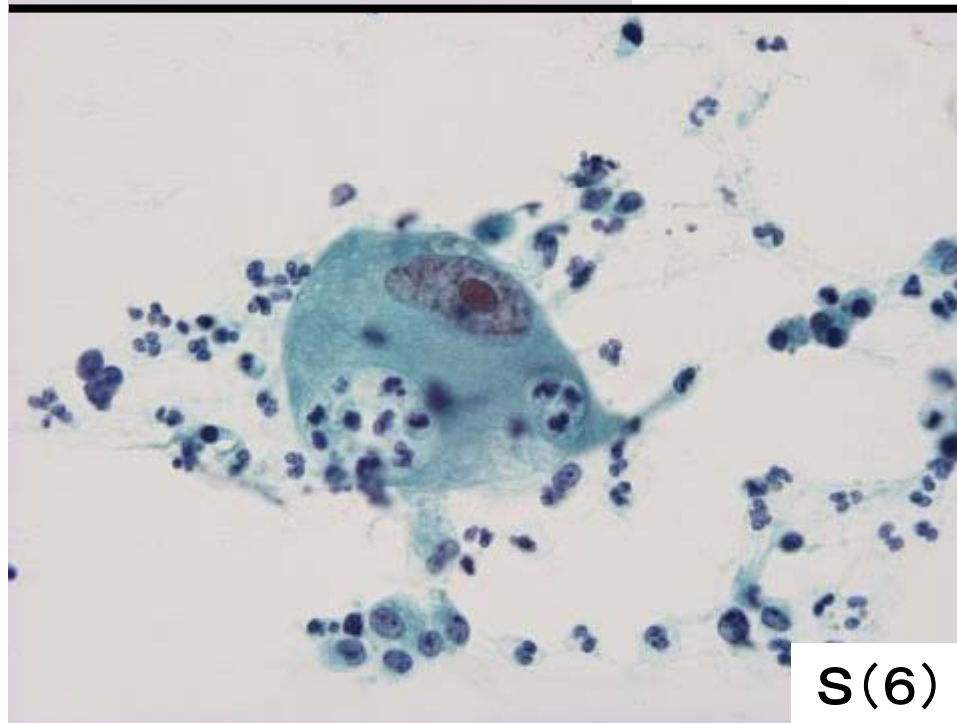
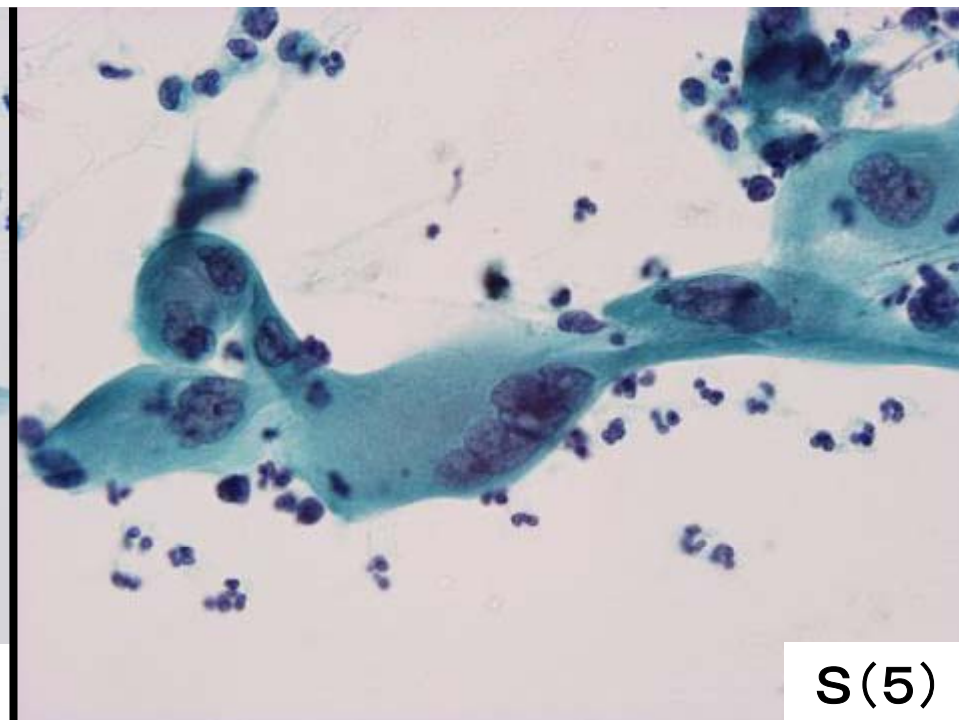
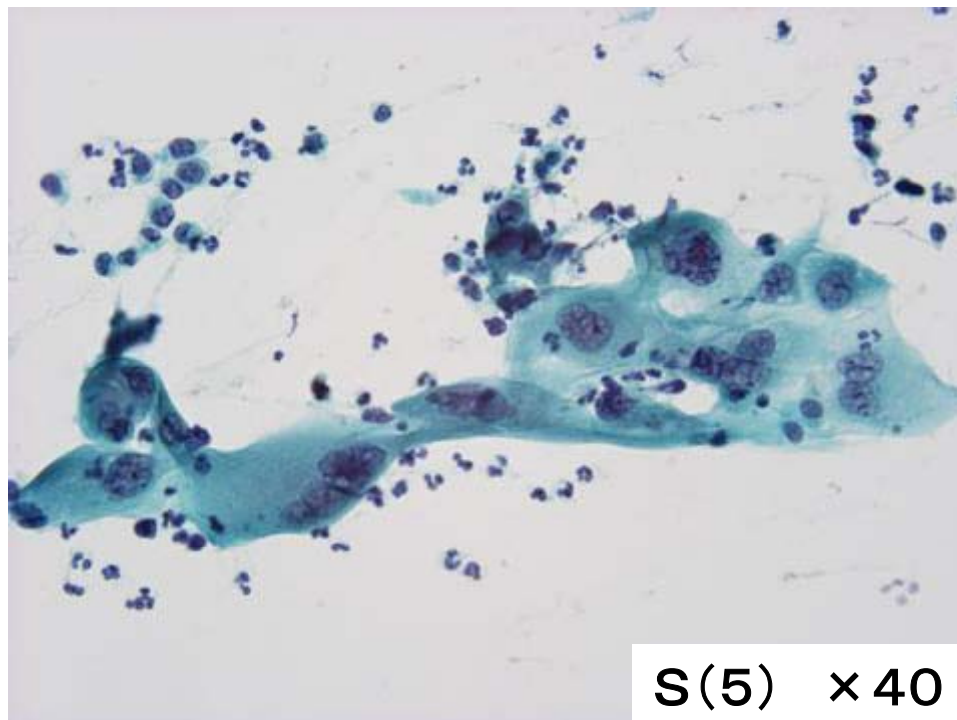
子宮腔部

※子宮腔部擦過標本で認められた6ヶ所の細胞を供覧

子宮頸管擦過標本と類似の細胞が出現



胞体が淡く目立つ核小体を有するシート状様集塊 (全て×60)

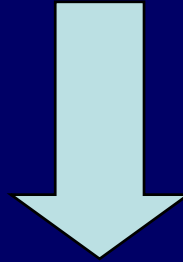


前スライドの細胞とは少し異なり、胞体が厚くライト緑好性を示す異型細胞がシート状様集塊に、また孤立性に認めた

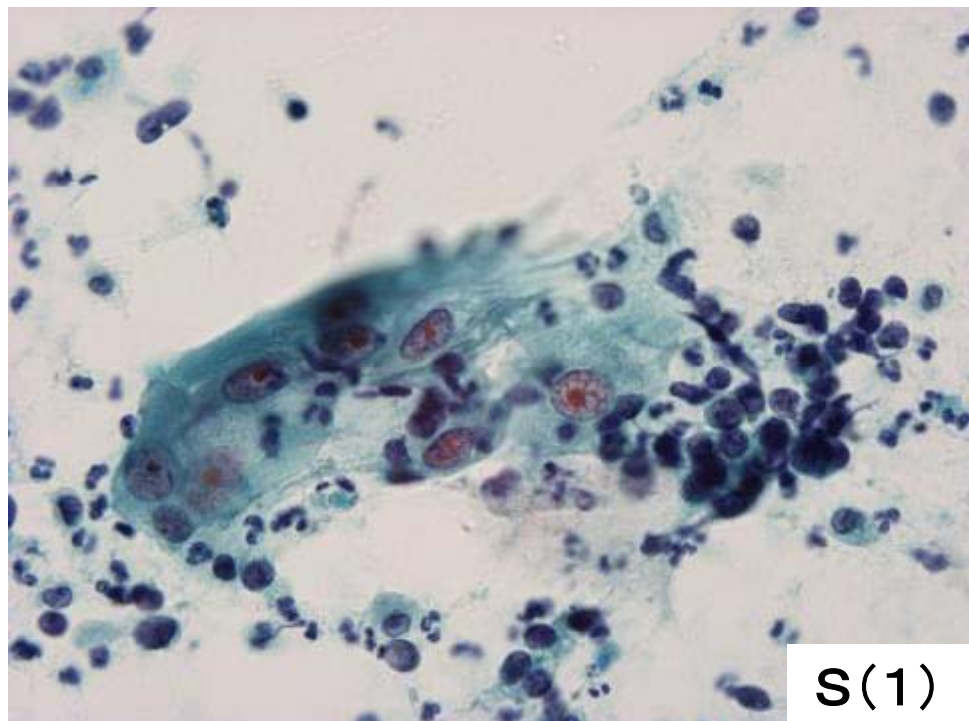
個々の細胞は、核偏在傾向、単核～多核を伴い、大型不整形な著明核小体を有している

そこで

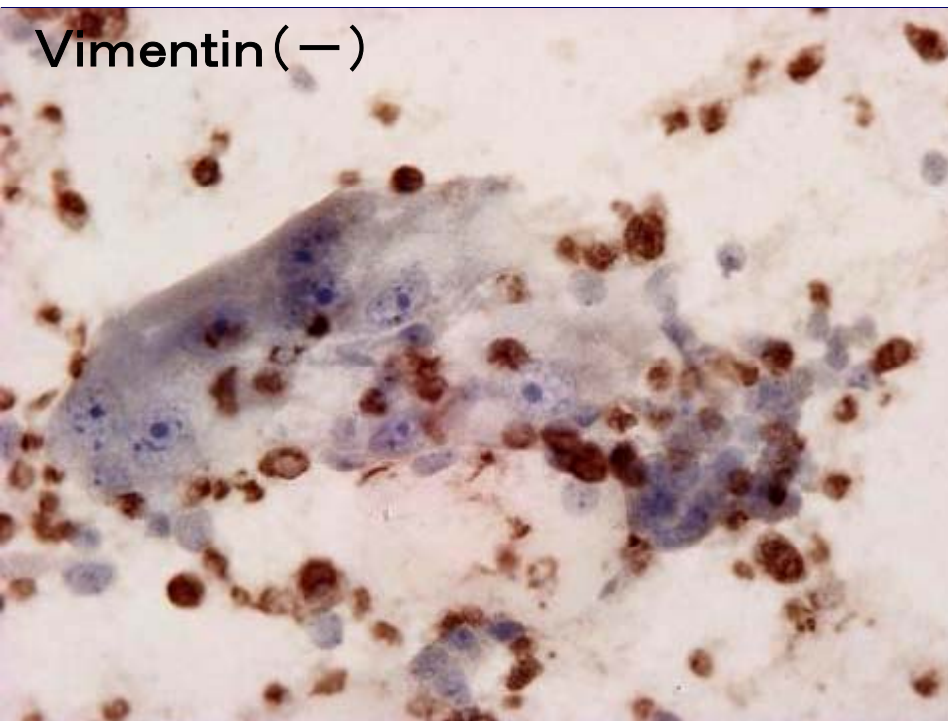
子宮腔部・頸管擦過標本で認められた細胞は
上皮性由来？非上皮性、肉腫成分由来？



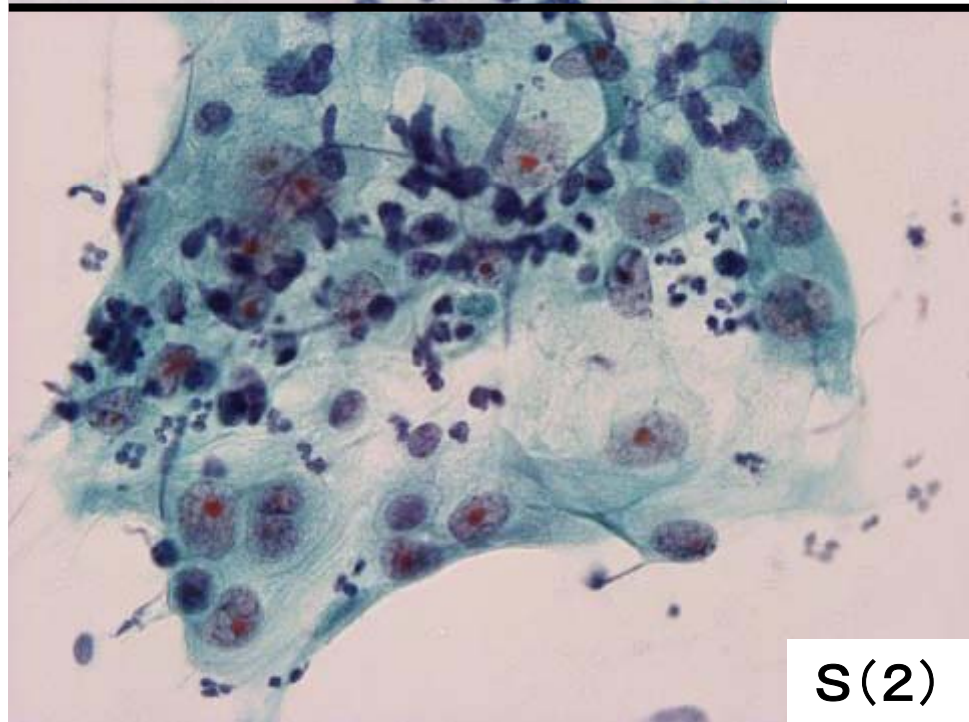
子宮腔部擦過標本上の6ヶ所の細胞の中でも再生上皮様に見える細胞と肉腫を考えるような細胞と分かれる。しかし、すべて同じ由来の細胞と仮定し、子宮腔部擦過標本のPap. 染色を脱色して、Vimentin・Desmin・Myoglobinの3種類に分けて免疫染色を行った。



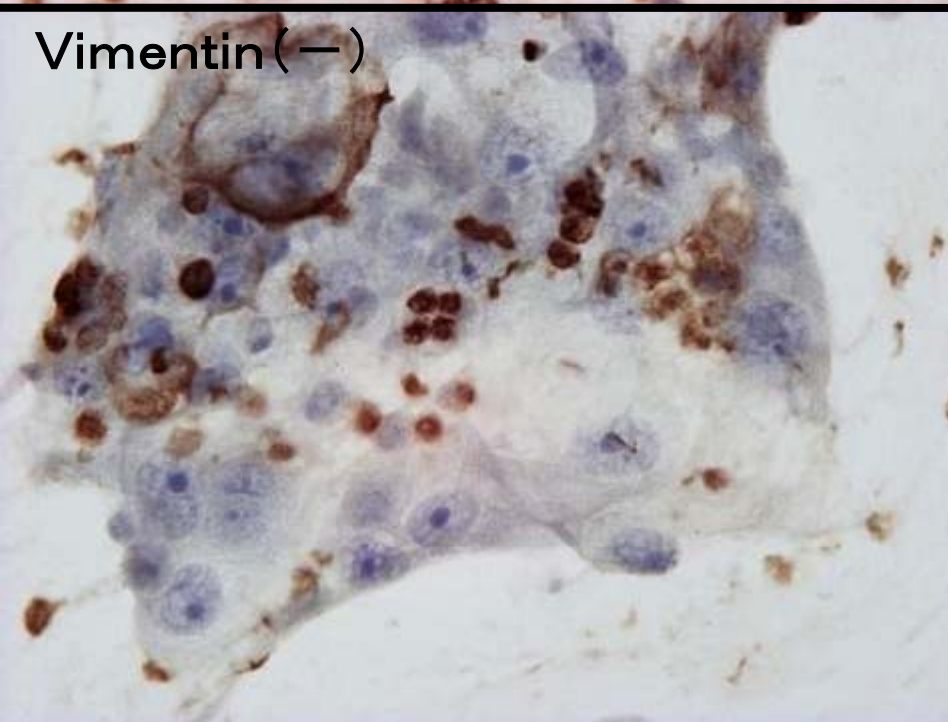
S(1)

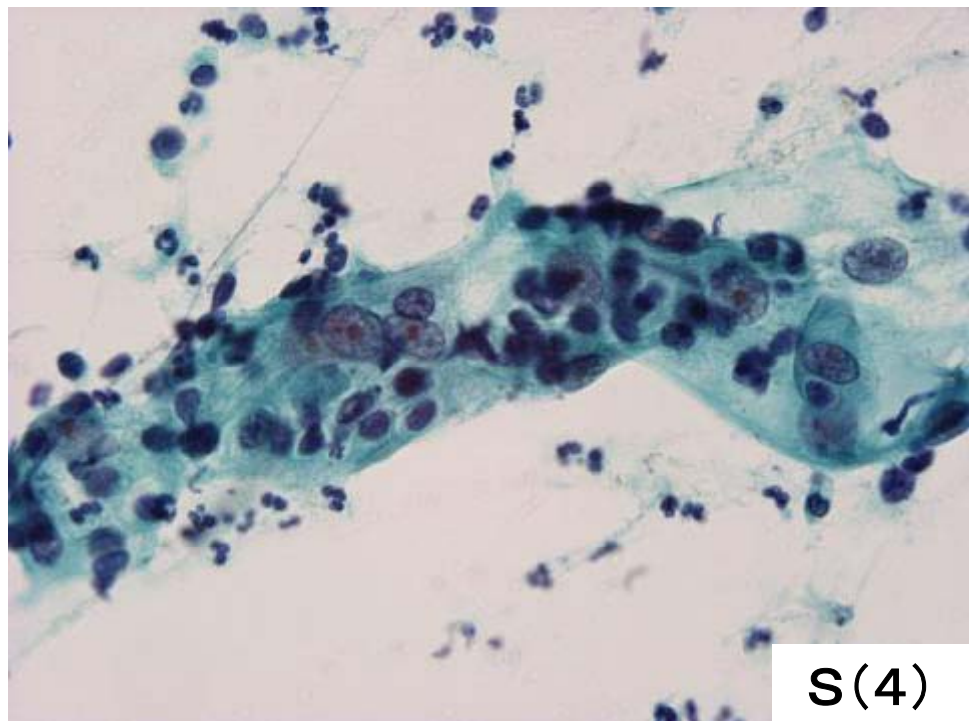


Vimentin (-)

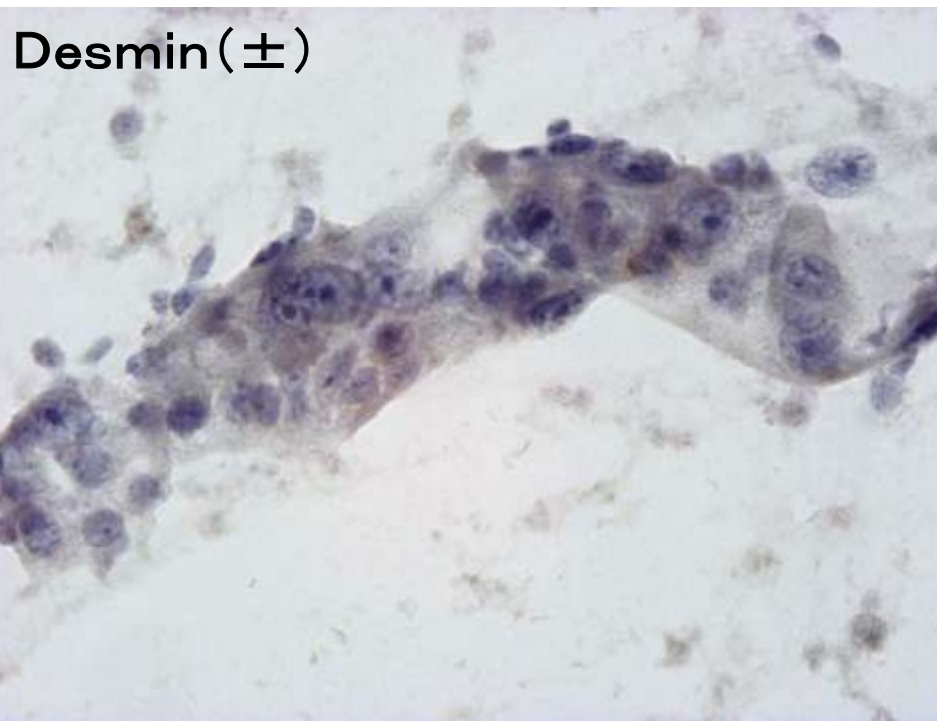


S(2)

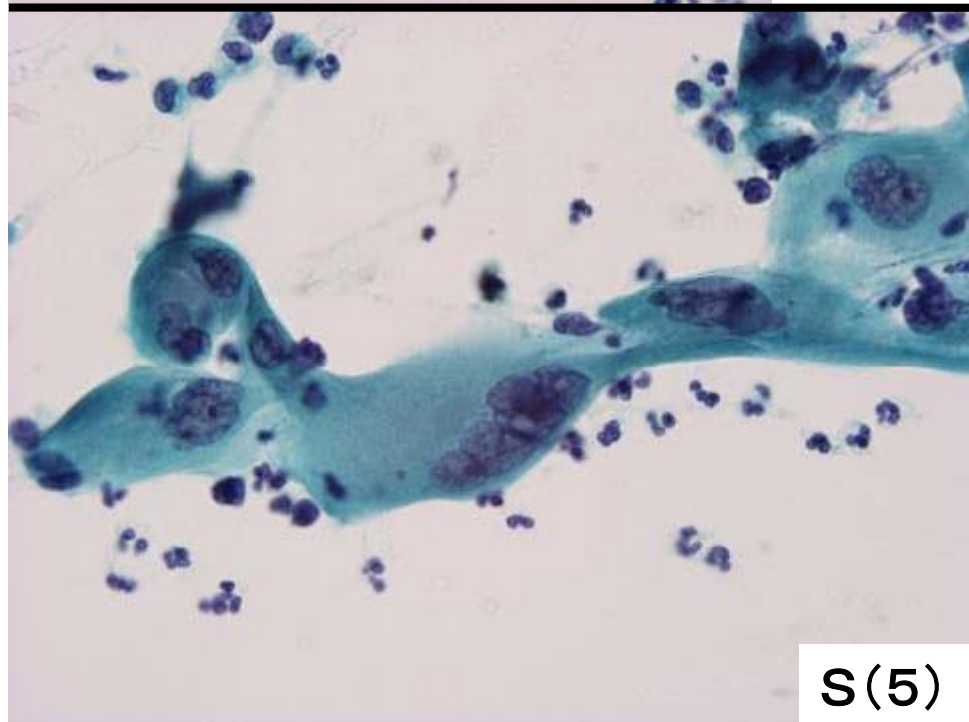




S(4)



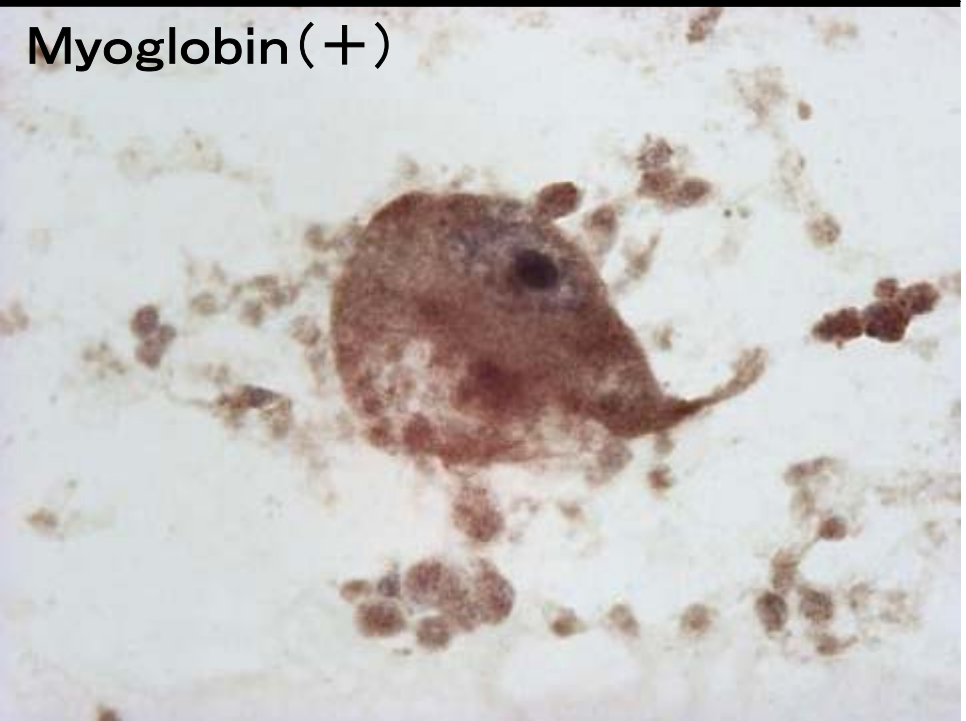
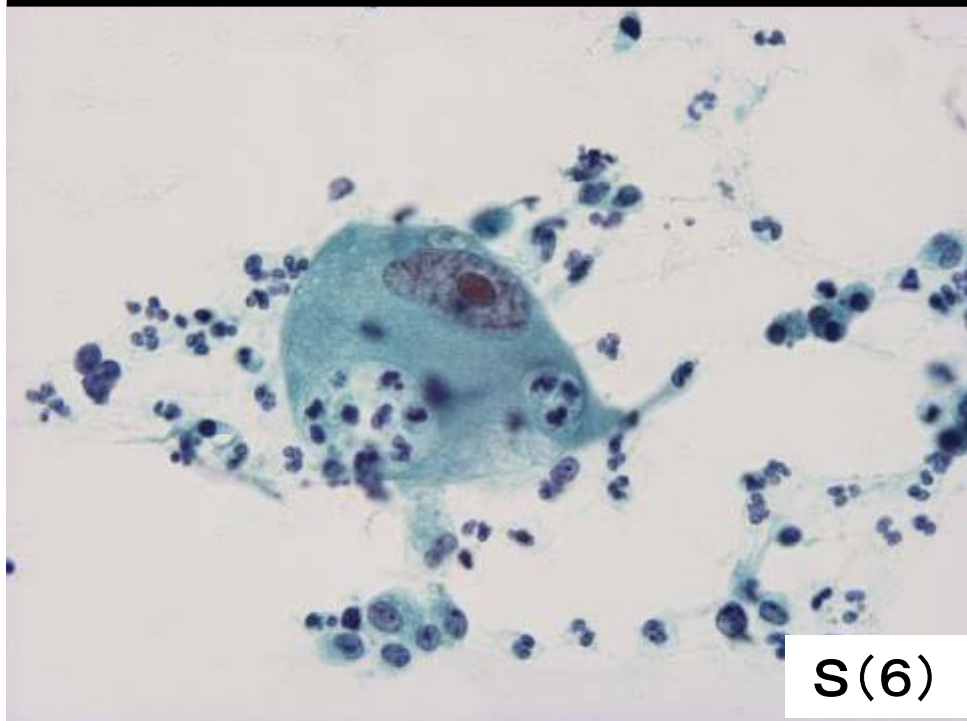
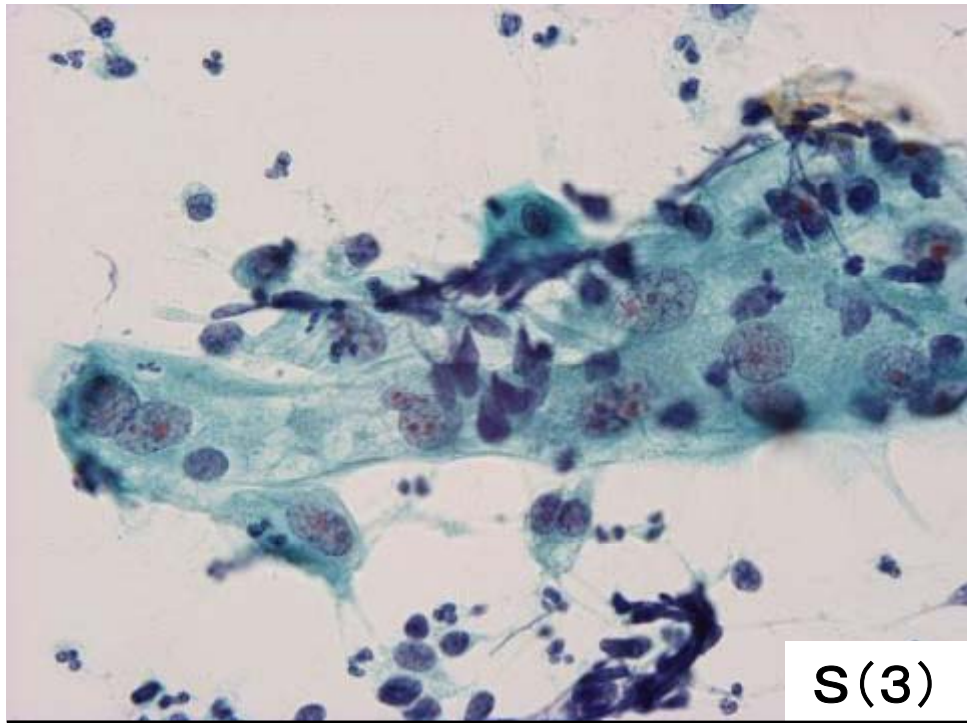
Desmin(±)



S(5)



Desmin(+)



まとめ

6ヶ所の細胞はすべて同じ由来の細胞と仮定した結果



Desmin・Myoglobin(+)を示した細胞は非上皮性、肉腫由来の細胞ではないかということが分かった

※免疫染色において陰性・陽性と染め分かれた結果をふまえても特にPap. 染色標本では、上皮性由来か非上皮性由来か鑑別が困難であると思われる。しかし、大型不整形な著明核小体を有する異型細胞が出現している場合は、肉腫由来も念頭におかなければならないと考えた。

* 子宮体部癌肉腫 *

子宮体部悪性腫瘍の中、子宮肉腫の占める割合は約5%であり、その中子宮体部癌肉腫は数%と比較的稀な疾患である

同所性(53%)

線維肉腫・平滑筋肉腫

異所性(47%)

横紋筋肉腫・軟骨肉腫・骨肉腫・脂肪肉腫



癌腫成分としては**悪性度の高い**腺癌のことが多く、
類内膜腺癌が最も多い

* 子宮体部癌肉腫 *

- 極めて予後不良
- 閉経後の高齢者に多く発生(40歳未満では稀)
- 初発症状は不正性器出血

肉眼所見

- 外向性増殖
- 出血・壊死
- 子宮内腔を充満するポリープ状の軟らかい
隆起性病変

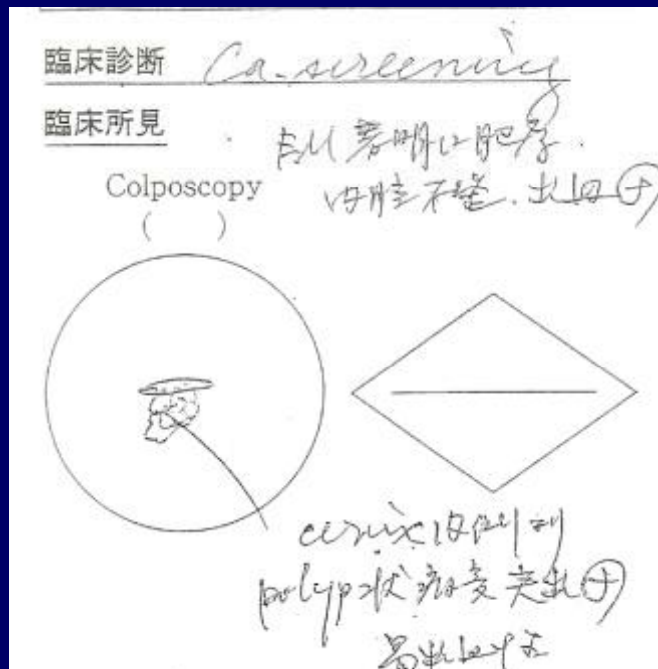


しばしば、**子宮口より外へ突出**

※ 文献によると、癌肉腫においては術前に両者の腫瘍成分を細胞診で診断することは困難であると言われている

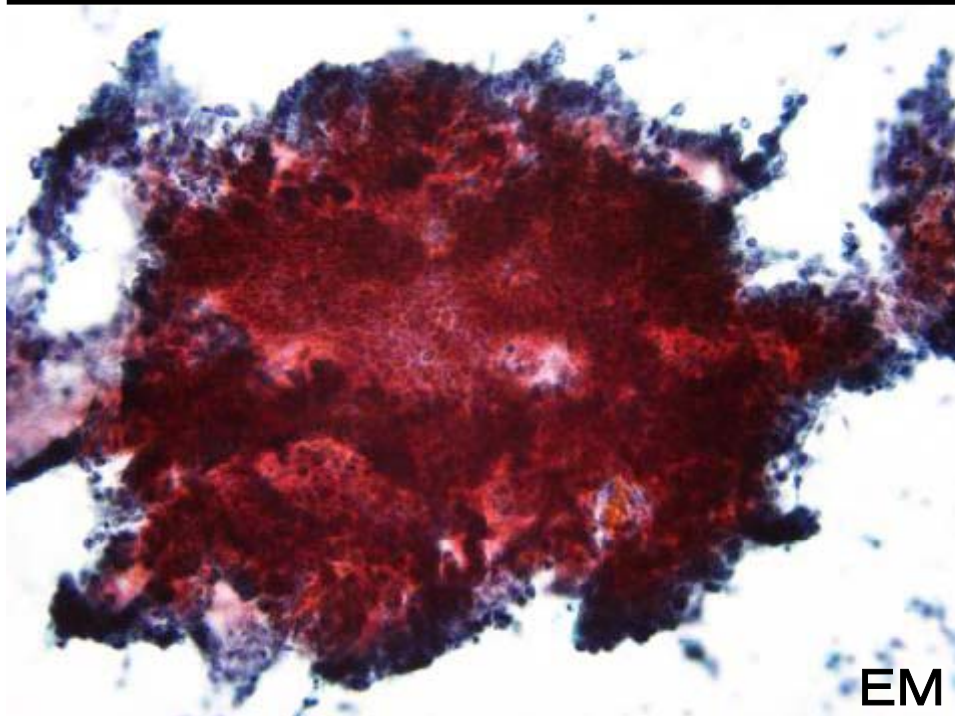
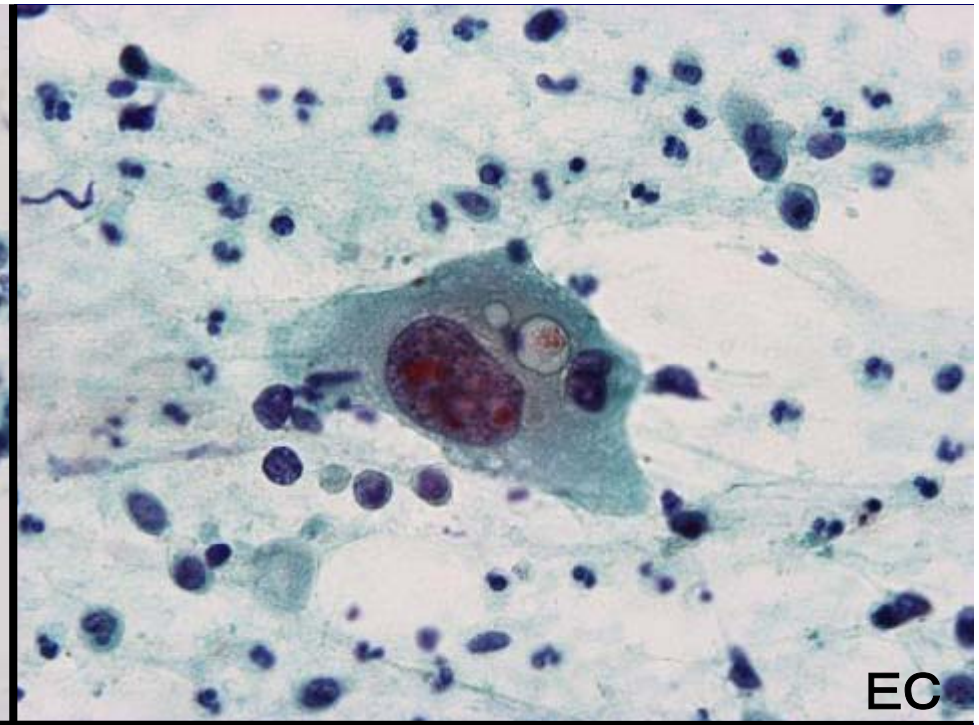
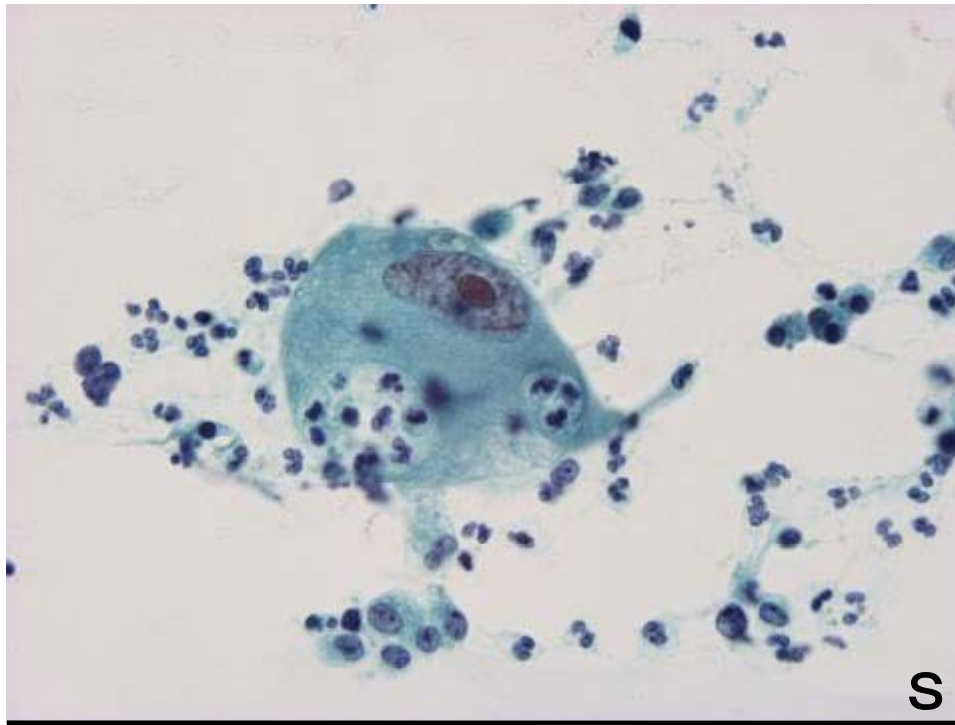
私どものような検診施設においても、以下のようなコルポ所見および細胞所見を認めるときには、癌肉腫の存在が考えられるのではないかと。念頭におき、日々の業務に携わらなければならないと勉強させられた。

ポイント①



(精査時のコルポ所見)

子宮内腔側より頸管の方へ不整にポリープ状に突出している



ポイント②

上記の写真のように核形不整を示し、大型不整形な著明核小体を有する異型細胞の出現を認めるときには、非上皮性、肉腫の存在を考える。

かつ左記の写真のように類内膜腺癌の所見も認めるときにはコルポ所見もふまえて癌肉腫の存在も考えなくてはならない。

今回、私ども検診施設において稀な症例である子宮体部癌肉腫を経験し、勉強させられた症例であった。よって、皆さまに供覧したく出題させていただいた。